大正十一年八月十[illegible]
大正十五年一月一日發行（毎月一回一日發行）

満洲之社會改題

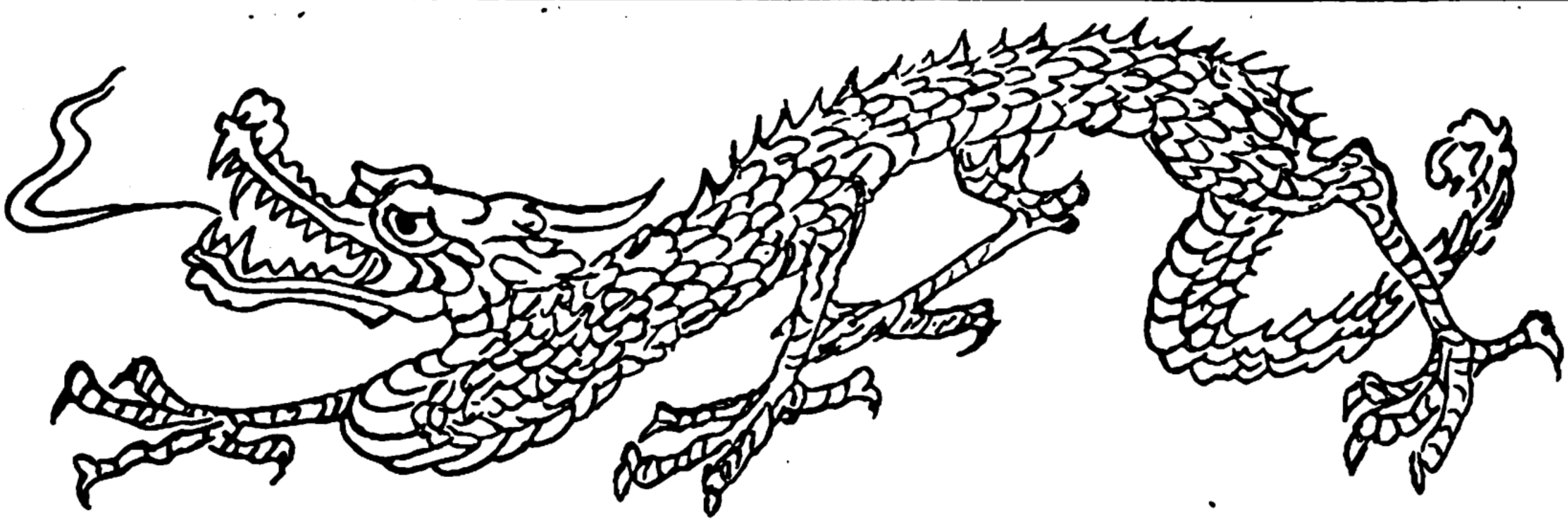
社會研究

第四卷第五號

丙寅元旦號

重要目次

満洲社會事業研究會



◎鐵道◎

幹線　四三九哩
支線　二五六哩
受託經營　七九哩

◎炭礦◎

撫順　埋藏九億噸
煙臺　埋藏二千萬噸

◎製鐵◎

鞍山
鑛區十一箇所
鑛量三億噸

◎埠頭◎

大連
安東
營口
上海

◎倉庫◎

大連
地域約十萬坪
棟數七十七
野積地域
六萬五千坪
外ニ沿線三十二驛所ニ在リ

◎電氣◎

大連　奉天
撫順　鞍山
長春　安東
□□點燈　□□電鐵
諸工業派轉

◎水道瓦斯◎

大連　奉天
撫順　鞍山
安東
上下水道トモ殆ト沿線各地ニ普及

◎工場◎

大連
沙河口工場
電氣修繕場
遼陽
蘇家屯

◎教育◎

醫科大學(一)
專門學校(三)
中等學校(一五)
補習學校(四五)
小學校(三二)
公學堂(一〇)
幼稚園(二六)
圖書館(二二)

◎衛生◎

醫院　二十二箇所
公醫派出　十五箇所

◎旅館◎

名稱　ヤマトホテル
所在　大連　星ケ浦　旅順　奉天　長春

◎試驗ト研究◎

農事試驗場
中央試驗場
窯業工場
地質調査所
技術研究所

鮮滿案內所

東京　大阪　下ノ關

南滿洲鐵道株式會社

一資本金　壹　億　圓

一積立金　八千參百五拾萬圓

本店　横濱市

支店
出張所

東京、名古屋、大阪、神戸、下ノ關、長崎、青島、濟南、天津、北京、漢口、上海、香港、廣東、牛莊、奉天、開原、長春、哈爾賓、浦鹽（一時閉鎖中）、西貢、新嘉坡、蘭貢、カルカツタ、孟買、カラチ、マニラ、スウラバヤ、スマラン・バタヒヤ、シドニー、倫敦、里昂、漢堡、布哇、桑港、ロスアンゼルス、シヤトル、紐育・リオデジヤネイロ、ブエノスアイレス

横濱正金銀行大連支店

大連市大山通二番地

電話
代表番號三一六一番
海關取扱所四七六二番
宿直專用六〇一五番

社會研究＝丙寅新年元旦號（大正十五年一月發行）

一、資本金參千萬圓

一、一般銀行業務並ニ大連市金庫事務ヲ取扱申候

大連市伊勢町六十九番地

株式會社 滿洲銀行

電話四一二一番

振替貯金大連三三〇番

支店所在地

大連市山縣通、同小崗子、沙河口
金州、普蘭店、貔子窩、瓦房店、鞍山、奉天、
奉天小西關、撫順、本溪湖、安東縣、安東縣
興隆街、新義州、鐵嶺、公主嶺、長春、吉林

右ノ外内地、朝鮮、滿洲各樞要ノ地ニ爲替取引先有之候

火災海上運送保險

明治火災保險株式會社　千代田火災保險株式會社

東京火災保險株式會社　東京海上火災保險株式會社

日本火災保險株式會社　神戶海上運送火災保險株式會社

共同火災保險株式會社　大阪海上火災保險株式會社

橫濱火災海上保險株式會社　大正海上火災保險株式會社

代理店

三井物產株式會社

大連支店

大連市山縣通一八二號地

電話　代表番號七一〇一番

謹賀新年

鈴木商店

大連市山縣通り
電話四一五一番

滿洲土木建築業組合

大連市西通三五
電話四六二三番

大連

三越呉服店

電話代表四一八一番

謹賀丙寅新年

邊見勇彦

滿鐵大連醫院

戸谷銀三郎

貝瀬謹吾

大連錢鈔信託株式會社

神成季吉

大連市越後町二一八
川上賢三

大連市松山町
野津孝次郎

滿鐵社會課
工藤雄助

朝鮮銀行大連支店
藤巻太一

日清製油株式會社
門田新松

大連市攝津町一ノ九
杉野耕三郎

毎月一回一日發行

新年號

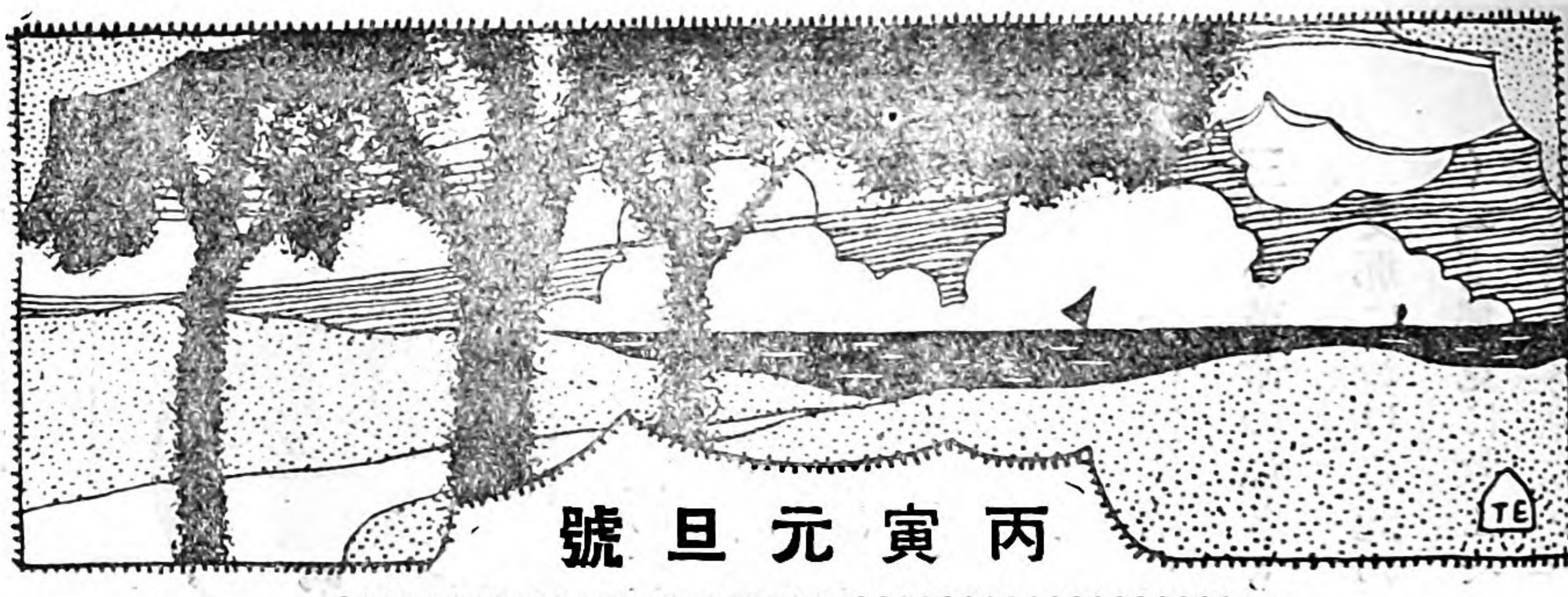
一部十錢送料不要

大連語學校機關雜誌 螢雪

第六年第一號要目

發行所 大連語學校螢雪會

發賣所 大連市浪速町 振替大連五五 大阪屋號書店



改暦の意義

暦の改まる毎に人は之を『お目出たう』と云ふ。何が故にお目出たき乎。一休禪師の如く觀ずれば、『目出たくもあり目出たくもなし』と成るべきが、お互ひに兎も角も年の瀨を越へたり、更らに心を新たにして勇ましく人生の新道程に上らむ、と云ふところに改暦祝賀の意義あるにあらざる乎と思ふ。坤輿一轉、我々人類の棲息する地球が太陽の周圍を回轉するは、幾億萬年の昔より繰返さるゝ平凡事なるも、之を平凡視せず、その一回轉毎に、暦を改めて之を祝福す。亦是れ吾々人類の一務たらずんば非ざるなり。

地動說を唱えたるガリレオは牢獄に死せるも、彼の發見せる科學的眞理は今や一般の認むる所となり、改暦の意義も亦隨つて深きを加へ來れり。千字文に『春來、夏去、秋收、冬藏』とあるが、暦の一年間は今も猶ほ此の通りの事を繰返しつゝあり乍ら、人事の變遷は太だしく、殊に現代の人類社會は、思想的にも、外皮的にも、之を昔年に較べて驚くべき程の變化をなせり。地動毎に地球も變化しつゝあれど、逝久なる宇宙の變化の緩慢なるに引代へ、人事の變が改暦毎に激しくなるは何を意味する乎と稽えよ。

此の變化の激しき人類社會において、去り行く年を送り、來れる年を迎え、而して其の改暦を祝する所以のものは、變化に處して變化を善導するに在らざる可らず。個人的にも、家庭的にも、社會的にも、國家的にも、變化に處して變化を善導する所に意味は存ずる也。『お目出たう』といふ言葉の奥に此の覺悟なくんば遂には『目出たくもなし』といふ事にならむ。改暦毎に個人を好くし、社會を好くし、國家を好くせずば、改暦の祝賀は意味を爲さず、人生は竟に荒野を辿る無目的の旅行と何等擇ぶ所なかるべし。



民國思想界の傾向

山田芙峰

辛亥革命以後の支那は武力角逐と武人專制の世の中となり、大總統も、行政院たる內閣も、立法院たる國會も、軍閥の武力とその武力至上主義によつて支配されてゐる。そこに支那は武力でなければ統一されぬといふ考へも起るが、その軍閥武人の一起一仆もまた激しいので、いつ纒まる事やらとんと見當が付かない。最近には馮玉祥の國民軍が北京を擁して西北方面から京畿地方に手を擴げたもの丶、東北部に於ける奉天派の軍閥と、吳佩孚を中心にしてゐるらしい東南部における武人團と、この國民軍との關係が今後何う消長するかも問題である。辛亥革命は北洋軍閥の巨頭袁世凱のために攪亂され、第二第三の小革命の如きも、また等しく武力で蹴散らされて了つた。

支那における此の表面の事相にのみ着眼して支那のことを考へると、嘗て英人ブランドの喝破つた如く『支那竟に救ふべからず』との感を起さしめ、更に支那の古語を藉りて『朽木は彫るべからず、糞土の墻は塗るべからず』とも思はしめる。併しながら翻つて民國思想界の傾向を討檢してみると、武力角逐

武人專制といふ表面における劇的シーンの裏に反帝國主義、反資本主義と民族自決の勢ひが年毎に强烈となり、それが或は國權恢復運動となり、或は利權回收運動となり、或は排外運動となるといふ有樣でそこに支那革命のやり直しを欲する更生慾の燃えて居ることが窺ひ知られる。これ等は國民黨その他の政客と大學敎授や大學生と種々の社會的團體によつて指導せらるゝ思想的運動に基づくもので、大多數の民衆は無自覺、不關焉といふ狀態に見ゆるも、その無自覺が却つて是等智識階級者のために引摺られて行く事にもなるのである。歐洲戰爭を劃期としての世界的變化は、各方面に影響を及ぼし、我が日本の思想界も著しく變つたが、最も注意したいのは、イムペリアリズムの勢威頓に衰え、對內的であつた反資本主義が漸く對外的、國際的となり、それが自決主義の民族運動と結合し易い今日、支那がこの世界的潮流になかんづく能く掉してゐる事である。帝國主義の暴威を揮つたロシヤとドイツが倒れ、帝國主義國、資本主義國のイギリスの力が何となく衰えて來たのも、支那にとつては勿怪の幸ひで、したゝかイムペリズムに脅かされた支那がこの機會を狙ふのは當然である。

歐洲戰爭後に國權恢復運動が支那に起つたのは此の故で、支那の全權がパリー會議に將たワシントン會議に大車輪の働きをしたのも此の故だ。支那の國權恢復運動は勢力範圍の撤廢、租借地の還附、居留地の回收を初め、外國駐屯軍の引揚、外國郵便局の廢止、領事裁判權の撤去、關稅自主權の回復等をその目的として居るが、この內の一二はその目的を達成し、關稅自主權の回復と領事裁判權の撤去につい

ては近來殊にその聲を高めて來た。この國權恢復運動の裏面に反帝國主義の氣勢と支那の更生慾が燃えてゐるのは言ふ迄もない。國權恢復の一部を達成した支那は、この機會にとばかり、段執政々府をして鐵道國有案を立てしめたが、此の鐵道國有案は支那共同監政の前驅と見られた列國の支那鐵道共管に對する防御線で、産業開發の爲とは言ひながら、そこにも支那の裏面に動く或る大きな潜勢力の閃めきが見られる。猶ほ租界、居留地、鐵道附屬地の内外に亘り在支外人全體に家屋稅、營業稅、その他の租稅を課すといふ支那の提議も、反帝國主義的國權恢復の一閃影に外ならぬ。

右は支那の更生慾が反帝國主義の國權恢復運動となつて外に顯はれた二三の例であるが、それが嵩じて來ると、旅大還附、滿鐵附屬地に對する支那主權の行使、日本の滿蒙における旣得權の破棄、その他いろ〳〵な難題となつて次から次へと顯はれて來るかも知れない。滿蒙に特殊地位を有する日本の大いに警戒を要する秋である。それと同時に、内に對する支那の更生慾は、武力至上主義者の倒壞を目的としてゐる。支那の軍閥乃至武人は他面に大地主大資産家であるから、武力角逐と武人專制の勢威が衰へない今日、支那の智識階級にこれに對する不平と反感が起るのは當然で、辛亥革命を攪亂した袁世凱が天壇憲法の中に尊孔の一項を加へて自身皇帝にならうとした時、その反對の第一聲が北京大學から孔教排斥となつて顯はれた。それは信仰の自由を基礎的理由としてゐた。次いで文學革命といはれた白話體の文化運動などが起り、その革新の氣運と共に、羅家倫の家族制度破壞論や、高一池その他の舊道德排

斥や、周作人の人道主義や、陳獨秀の社會主義的論辯と運動や、易家鉞等の無政府主義やが時を得顔に一しきり支那の思想界を荒れ捲つた。その頃の我國の思想界も略同様であつた。新思想の宣傳機關たる新聞や雜誌が北京、天津、上海、漢口、廣東その他の南北各地に競ひ起つてそれが二百幾十種に達したのも其の頃である。斯うして支那の民族意識も目醒めて來るのだ。

この思想界の潮流に掉して巧みに民衆を操つたのは理想的政治家の目ある孫文で、彼が實際政治の舞臺から引退つて啓蒙運動に取掛つた時、大いに支那の革命的氣運を煽つた。その著『孫文學說』の第壹卷『行易知難』のうちに『滿清の專制は國民の力によりて之を去りしも、今や轉じて無數强盜の專制を生出し、その毒の烈却つて前よりも甚だし、茲においてか民いよ／＼生に聊んぜず』と言つてゐるが、事實その通りで、彼の謂ゆる强盜なるものは、大地主と大資產家を兼ぬる軍閥及びその一味の官僚と政客を指示したものである。辛亥革命の元勳とも云ふべき孫文が武人專制と武力角逐のために其の革命の空骸化したことを憤るのは當然だ。斯くして彼は三民主義、卽ち民族主義による種族革命、民權主義による政治革命、民生主義による社會革命を力說し、同時に五權憲法、卽ち憲章のうへに行政院、立法院、司法院、考試院及び監察院を並立せしめると云ふ具體論も併せて發表した。孫文は實際政治の上にこれといふ事蹟を殘さずにこの世を去つたが、彼の蒔いた思想の種は、歐洲戰爭後における目眩しい程の世界的變化と相俟つて、支那の青年と青年の友たる智識階級の間に次第と培はれて行つた。それに伴れて

社會主義的、共産主義的、無政府主義的思想も支那に浸潤して行つた。

舊社會黨系といはれた江亢虎一派のマルキシストや、孫洪伊を頭に戴いた民友社系統の社會主義的運動などは、固より飜譯的請賣的のものであつたけれども、支那のインテルゲンジアには可なりに强いショックを與へた。その代辯者たる憑自由は『支那の資産者は軍閥と官僚の二種のみで、若し巡閲使、督軍、師長、省長となれば、直ちに官を售り、軍餉を私しすることが出來、若し鹽運使、財政廳長、鐵道督辨、銀行總裁等になれば、直ちに鹽を私賣し、公款を盜むことが出來る、だから近年財を獲、産を殖したものは、孰れも武人か官僚かである』と言つたが、之れも事實正にその通りだ。どこの國にもさうした弊風はあるものだが支那は殊にその甚だしい處である。『陞官發財』の語ある怪むに足らずだ。斯うして支那の思想界には反帝國主義と共に反資本主義と反軍閥の氣勢が高まつて來、それがまた傳來の排外心を煽る一因ともなるのであるが、近來それが一ころのやうな勢ひがないのは、この思想力が漸く潛在的となり、さうして社會問題や勞働運動に絡まり來つた故と思ふ。

この潮流に乘じて、支那に勞農ロシアの赤い手が伸び、モスクワに本部を有する第三インターナショナルの力が加はるのも、正に有り得べき事柄だ。一九一七年十月のロシャ革命に後るゝこと約三年目の一九二〇年三月頃、モスクワの勞農政府からカラハンの名によつて當時の北京政府に致された對支通牒は、帝政時代のロシアが支那を强壓して獲得した種々の權利及び特權を熨斗付けにして返上すると云ふ

のであつたから、その當時、他と同じくボルシェヴィックを魔の如く怖れてゐた北京政府の當路者は喜色滿面といふ狀態であつたが、民間の歡喜はそれ以上で、全國各界聯合會やその他種々の聯合會が開催されて、ロシア社會主義聯邦ソヴイエット共和國人民に對し『限りなく歡ばしい、無上に嬉しい、滿腔の謝意を表す』などゝそれは〳〵馬鹿に難有がつたものだ。その全國各界聯合會の謝電のうちには『西南政府並びに北京政府は皆一部分の頑柄なる官僚、武人、政客の盤踞する所にして、彼等が武力と外資を恃みてその位置を鞏固にしつゝあるは、實に貴國におけるコルチャク輩と異なるなし』とか、『吾人は已に方法を設けて彼等を喚醒せんとしつゝあり』とかの文句があつて、何がなしに盛んにメートルを昇げたものだ。此の機に乘じて第三インターナショナルが支那に宣傳の手を伸べたのは勿論で、上海、廣東、漢口は申す迄もなく、北京、北滿、甘肅、新疆等にまでも宣傳機關が作られ、更に湖南や浙江の軍隊にも手が伸びた。支那赤化の評判はその頃から高まつて來たのである。

『支那は果して赤化するや否や』、この問に對しての答は輕々しく出來ないが、その危險性はあると言へやう。財力と武力と權力の三者を兼有する軍閥とその一味の跋扈する限り、その武力角逐と武人專制の續く限り、これに對する智識階級と庶民階級の不平と反感が高まるのは當然で、そこに社會革命の虞れがある。然らば孫文の唱ねた民生主義の社會革命とは何んなものである乎といへば、土地公有と地租單稅を主としたもので、ヘンリー・ジョーヂの糟粕に過ぎないが、彼の宗旨を奉ずる國民黨の政客には社

會主義に共鳴する者があり、智識階級者のうちにも左傾的急進思想を抱いてゐるものが多い。大正十年正月元旦の國民黨宣言の中に『土地法、土地使用法、地價税法の制定の外、私人の土地所有權の程度を制限し、鐵道、鑛山、森林、水利並びにその他大規模の商工業はこれを國民全體に歸屬せしめ、國家はその機關を設けてこれを管理し、勞働者にはその一部の管理參加權を與ふ』といふ文句がある。是などは純然たる社會主義だ。更に中國共產黨なるものが生まれ、それが亦極端なる左傾主義を唱ね、勞働群と軍隊の一部に手を伸ばすと云ふ有樣だから、支那は寧ろ赤化の虞れがあると言つて可い。憑玉祥の國民軍と國民黨との關係、又その一派と勞農ロシアとの關係などを考えてみても、支那に社會革命は起らぬと誰か能く斷言し得られやうぞ。先頃東三省における張作霖の軍隊に『汝等は位祿を貪つて民衆の敵となるか、汝等は何のために兄弟を殺すか、兵を止め戰ひを收めて農に還れ商に還れ』と小さな紙片に書いた喧傳が舞ひ込んだと云ふことだが、若しボルシエヴイックの手が軍隊に迄も喰ひ込んだら、それこそ一大事であつて、支那は結局赤くならねば濟むまいと考えられる。

大阪每日新聞記者布施勝治君はロシア通を以て知られた人だが、同君が最近の紙上に掲記した『五年振りのロシア』といふ記事のうちには、ロシアの東洋赤化に關することが書いてある。今それに據るとカーメネフ、ジノヴイエフ及びスターリン等ロシア共產黨の現幹部は、トロツキー一派の消極的政策を排し、防備堅固なる西歐列强の正面には、コ、暫らく持久戰をとり、抵抗力の少い東洋方面に向つては

東洋の民族運動が破竹の勢ひを以て進展しつゝある今日、大いに積極的攻勢手段をとり、『世界革命』の旗印を高くかゝげて進まねばならぬとし、現にソヴイエット政府はこの『西守東進』の方針をとりつゝあるさうだ。尙ほ布施君はその記事のうちに『ソヴイエット勢力の東漸は單に中東や近東方面にのみ限らない。現にシベリアでウエルフネジンスクを首府とする（蒙古およびブリヤート共和國）の出現が外蒙赤化の導火線となり、赤化せる蒙古は更にロシアの對支經綸の策源地とならうとしつゝある。ソヴイエット政府が最近シベリア、外蒙および北滿に向つて種々の積極的畫策を試みつゝあるは、要するにジノヴイエフの云へる（來るべき支那の大革命）に對する準備に外ならない。シベリア、外蒙及び北滿がロシアの對支那策源地たるは、恰もトルキスタンとアフガニスタンが對インド策源地たると同然と見なければならぬ』と述べてゐる。赤化の手が支那に伸びるのは當然ではない乎。

イギリスに起つたキャンベル文書事件、次いで起つたジノヴイエフ書翰事件、首府ソフイアにおいて要路の人物を一網打盡的に暗殺しやうとしたブルガリア事件、異民族リフ族を反亂せしめてフランスを惱ませたモロッコ事件も、皆悉くロシア共產黨の陰謀に基づくものだ。これ等は資本主義の國家に向つての赤化の手であるが、資本主義の國家から虐げられてゐる國家又は民族に向つての赤化の手は、その民族自決の氣運に乘じて或は反基督敎運動、或は反帝國主義運動、或は民族解放運動、或は國際水平運動、或は反資本主義の排外的勞働運動となつて現はれて來る。支那にこれ等の運動が起るのはその裏面

に赤化の手が潜んでゐる爲ではあるまい乎。昨年上海方面から排外的勞働運動が猛烈に火の手を擧げたとき、ロシア共産黨のジノヴィエフは『支那の勞働者は世界革命の最も有力なる要素となつた、上海にはもつと流血を見ねばならぬ、上海の出來事はエヂプトや印度やジャワへの先例となるのであらう』と言つたと云ふではない乎。兎に角支那の將來には注意を要する。

支那は元々易姓革鼎の國柄で、絶えず革命を繰返して來たのであるから、辛亥革命が不徹底に終つた以上、早晩更に何等かの革命が起るものと見て差支えなからう。武力角逐と武人專制の現狀、その現狀を打破せんとする一部人士と智識階級者の企圖、急進的なる思想の流れ、裏面に動く或る大きな潜勢力を思ひ、飜つてイムペリアリズムの勢威が衰えて來た事、それに乘じて支那の反帝國主義と國權恢復熱が强烈となつて來た事、軍閥及び官僚に對する不平反感と共に反資本主義の排外運動が起り易い事、殊にそれが勞働運動に現はれて來た事、勞農ロシアの赤化の手が動いてゐる事など考えたならば、支那の前途は全く危險である。武人によつて展開せらるゝ現在の劇的シーンは、寧ろ支那の革命的氣運を助長してゐる樣なもので、そこにも非常に大きな危機が包藏されて居るものと見なければならぬ。卵殼はまだ破れないが卵殼を破るべき內面力は可なりに充實して居るやうだ。

殊に留意すべきは支那に於ける今後の勞働問題と勞働運動だ。支那勞働者の大多數はまだ眞に階級意識に目醒めて居ない。支那にも工人會を初めその聯合會や種々の勞働組合が設けられてあるが、その勢

力は猶ほ微弱で、彼等のために孟子の謂ゆる『身を殺して仁を爲す』底の眞骨頂なく、裏面に在つて勞働運動を繰りながら軍閥、官僚の苛斂、誅求、搾取及び横暴を罵る智識階級者のうちにも、例の發財のためにその言動を二三にする者あり、現に香港海員同盟罷業や鐵道從業員同盟罷業の行はれた時の共産黨員の態度は陋劣極まつたもので、これ等事件のために集まつた寄附金を着服した爲め、京漢路工會委員より『中國共産黨は勞働者の身上に發生する白蟻』だとか『彼等は吾人の内部に伏在する一種の癌』だとか罵られた程だから、支那の勞働運動が果して眞物になるか否かはまだ能く分らない。併しながら此の裏面に思想的背景のある事、それが社會主義的色彩を帶びてゐる事、反帝國主義、反資本主義なると同時に排外的なる事等は、支那の勞働運動に對して留意すべき要點である。

國民軍が奉天軍の内訌に乘じて京畿地方に全勢力を張つた時、北京に國民大會の大規模なデモンストレーションが行はれ、先づ執政邸を襲ひ、次いで教育總長、財政總長、前警視總監等の自邸に押寄せて大暴行を演じたが、これは國民黨の左翼の手を通じて行はれた赤化運動の一ツである。斯うした事は今後も機會ある毎に支那の各地に起るであらうと思はれる。國民黨には穩健派と急進派との別があり、國民軍と國民黨とが何處までも堅く手を握つて行けるかも問題だが、支那の動搖毎に民國思想界の傾向は益々過激になるだらうと考へられる。支那と最も利害關係の深い我が國は、この裏面の思想的潮流に深甚の注意を拂ひ、その對策を誤まるやうな事があつてはならぬ。

赤化問題

◆支那の動亂と共に支那の赤化といふ事が問題になつたが此の問題には先づ赤化の意味を明白にする必要があると思ふ◆申す迄もなく赤化とは勞農ロシアの如き赤い國になると云ふ意味で赤い國になると云ふ意味は共産主義の國家になると云ふことだ◆ロシアの戰時共産主義は失敗に終り新經濟政策によりて退却を餘儀なくされ赤色が桃色になつて來たが共産主義の源流は涸れない◆共産主義は社會主義の一分派でその本來の性質は物々交換の自然經濟を主張するのであるが勞農ロシアの共産主義は貨幣經濟の上に立つて居る◆そしてソヴィエツト制度の下に總べてを國家に集中して居るから嚴密にいへば勞農ロシアの社會主義は社會主義の一分派たる集産主義に類して居るのである◆或る解說に從へば『社會主義とは人に依る人の搾取を廢し萬人をして勞働に從事せしめ萬人をして其の勞働の果實を享有せしめんが爲めに生産機關の公有を實現せんとする主義』であると云ふことに歸着する◆社會主義ソヴィエツト聯邦共和國たる勞農ロシアは工業勞働者と農民といふプロレタリアを本位として委員制度の下に獨裁的に集産的社會主義を行つて居るのである◆社會主義にも右の如く共産主義と集産主義との分派がある外に社會政策式の議會的社會主義、トレードユニオニズム又はサンヂカリズムの組合的社會主義、勞農ロシアのやうな獨裁主義のボリシエヴィズムがあり◆猶ほセントラリズムやメニシエヴィズムの民主的社會主義などもあるが是等の區別は運動及び政策の上より見たる分類である◆そこで赤化とは之を要するに社會主義化すると云ふことで又その社會主義化とは資本主義を打破して生産機關の公有を實現せんとする事である◆唯その手段が餘りに過激でレヴオルシヨンに依つてその實現を圖らうとするので他の國家又は民族に或は恐怖され或は嫌忌されるのである◆資本主義國において社會主義國のロシアとその共産黨員の團體たる第三インターナショナルが憚られるのは當然だが一ツは赤化宣傳と陰謀が根强いので嫌はれるのだ◆議會政策によつて社會主義を漸進的に實現しやうとして居るイギリスの勞働黨でさへも此の故にロシア的共産黨との關係を絕つて了つた◆彼のキヤンベル事件やジノヴィエフ書翰事件がロンドンに起つたのも故なきにあらずで首府ソフィアに起つたブルガリア事件もフランスを悩ませたモロッコ事件も共産黨の陰謀に因ると言はれてゐる◆ロシアは帝政

時代にも世界に重苦しい壓迫力を感ぜしめ其の武斷主義は殊に東洋の支那に強く現はれたが社會主義の現在の勞農ロシアも東洋方面に高壓電力を通はせて居る◆勞農ロシアが『世界革命』を旗印として居るのは隱れもない事實で今日は西歐方面に守勢を取り東洋方面には攻勢を取り差當り支那を東洋赤化の第一線としてゐる◆支那の外藩たる外蒙古は已に殆んど全く赤化され露領シベリアを通じて北滿地方にもロシアの手は伸びて居るから支那の前途は全く危ない◆ロシアから働きかけないでも今日の支那は社會主義化すべき種々の素因を有つてゐる軍閥の跋扈とその專制はその大きな素因だ◆それに歐洲戰爭後におけるイムペリアリズムの衰勢と共に支那にも民族自決の意識が動き先づそれが反帝國主義の聲となつて現はれ◆更に之れを基調としての國權恢復運動や利權回收運動や排外的勞働運動などが起つて來たのであるから議會政治の滿足に行はれない此の共和國には何うしても突飛な大變革が爆發化する虞れがある◆現在の武力角逐はその大變革前の變體的現象であるかも知れないイヤ此の馬鹿騷ぎは支那の大革命を促進し激成するところの誘因となるだらう◆辛亥革命が軍閥の武力のために不徹底に終つた上から云つても支那に社會革命の氣運が動いて來るのは當然で數年來の支那の思想界を討檢すると能くこの事が分る◆その大變革が若し爆發化した場合に中華民國の支那が勞働ロシアのやうな社會主義國になるか否かは豫斷し得られないが兎に角危險だ◆支那の武人角逐と武力專制は一面から云ふとセツセと自ら赤化の種を蒔いて居るやうなもので直奉戰爭後野法圖もなく武力的勢圈を擴めた東三省張作霖系の奉天軍閥は取分け自分で赤化の種を蒔いてゐる◆郭松齡の寢返りに遇つて周章狼狽した奉天派の主戰的軍閥者流は今更のやうに赤化を高調して或る方面の同情を得やうとしたが彼等の赤化云々は要するに一種の政略に過ぎない◆斯んな時代錯誤病者が多いので却つて赤化の手が伸び支那をして危險の深淵に臨ませるのであるが滿洲に利害關係の深い日本は此點に最も注意を拂はねばならぬ◆本家の勞農ロシアが戰時共産主義を捨てゝ新經濟政策の下に桃色化してゐる今日だから支那に早晩大變革が起つても純赤色にはなるまい◆が共和國の支那は遂に一種の社會主義國化する虞れがあるから此點を用心せよと言ふのであつて何もロシアを敵視して言ふのではない◆赤化せぬ迄も反帝國主義と反資本主義の風潮は滿洲にもおし寄せて來るだらう。



所有權の社會的意義

文學博士　遠藤隆吉

(一)所有權の要素は意志と努力

私が有つて居る一冊の書籍は何ゆゑ自分の物である乎、と云ふと、それは金を出して買つたからである。之を逆にいへば持主が之れに對する意志を放棄したからである。その持主は更にその以前の持主に放棄せしめたのである。斯くして轉轉極まる所がない。原料を集める人にしても亦之と同じ事である。此の理から推して、自分の物であると云ふ所有權の中には、意志が畢竟最大の要素であることが分る。

山から菌を採つて來る。自分の物だと言ふ。それは自分が努力を費し、所有の意志を有つて占有し、他にその占有に對して抗爭する者がないからである。則ち意志の外に更に努力がその實際的要素となつて居る。けれどもその山が誰かの所有で、その上に產する物を已れの所有とすると云ふ意志があつたならば、菌を採つた者は掠奪者となる。併しながら天然の儘に放置され、國家も之を所有すると云ふ意志がない場合には、その物はこれを採つた人の所有にすると云ふ一般の習慣に從ふの外ない。故に若し他に人ありて、その菌は僕の物だと言つても、已れが努力して採つて來たのであると抗辯すれば、それで濟むのである。努力は意志と共にまた所有の重大なる要素である。

されど總べての場合に必ず努力が所有の要素となつて居る譯ではない。一羽の雉子が庭に墜ちたとする。之を捕つたち

自分の所有となるが、此の場合には努力がない、有つても少ない、唯之を占有するといふ意志のみが重大なる要素となつて居るだけだ。自然界は誰の所有と云ふこともないから之を占有する意志を以て努力すれば則ちそれだけは自分の物になる。山林は國家の所有であるが、其の中に發生するところの或る植物に對しては、國家は必ずしも之を已れの所有とは考へない。けれども此の事も亦要するに程度問題であつて、天然物とは言ひながら、意味のある物であると乎、價値のある物であると乎いふ事になると、ヤハリ之を所有と看做さうとする。菌は國家の利得にはならないから、放任して置くのであるが、併し利得があれば必ず之を所有せんとするに違ひない。例を擧げて言ふならば、白蛇は山口縣玖珂郡の一地方に限られて産するものであるが、其の餘りに珍しいものであるが爲めに捕獲を禁じて居り、金坑は天然に存在するものであるけれども、其の利得は絶大であるから國家の所有と定められて居る。

今日の所では國家以上の大なる意志を有つたものはない。有つても直接に効力が現はれて來ない。此の故に國家の意志として之を已れの所有とすると言はざる限り、又國家が双互に約束して之を所有とすと言はざる限り、國内に在ると國外に在るとを問はず、自然に放任せられたる物として、之を占有するの意志を以て占有するならば、則ちその物はその人の所有に歸するのである。唯占有には多く努力を要するから、意志のみでは滿足なものでなく、所有といふ觀念の中には意志と努力との二要素が普通包含されて居るのである。

(二) ローマ法に現はれた所有權

ローマ法にユージユキヤピオ即ち今日の法律に於ける時效と云ふのがある。人が或る物を占領して公然之を使用すること久しきに及び、而も他人が之を認めて抗議せざるに於ては、その物に對して占有者の意志が最も多いものと言はなければならぬ。隨つてその物は當然その占有者の物となるのである。之は事理の當然であつて要するに所有の意志のある所を

以て所有權の何人に存ずるかを決定するに過ぎないのである。則ちローマ法に於ても意志と云ふことには最も重きを置いて居る。ラテン語に『或る物を自身に之を所有する精神』或は『支配の意志』と云ふのがある。此の言葉の意味から稽へてみても、意志より外には所有權を決定するものがないわけで、先天の理論などあるべき筈がない。それは天地自然の儘にある物を自分の物にしたいからである。何人も之を自然の事とし理の當然として認めて居る。國家が法律を以て決定するのも此の當然の理に基く外ないのである。それ以上の理由はない。極めて原始的將た野蠻的な仕事である。既に自然界の物を占領するのであるから必ず努力を要する。此點もローマ法に於て最も能く現はされて居る。卽ちローマ法に於て所有權を移す時には必ず奪ふと云ふ形式を取る。ラテン語にマンシパシオ或はマンシビユームと云ふのがあるが、それは手にて取ると云ふ意味で、要するに努力を意味するのである。

今日は國家が成立し、法律が洗練に洗練を經て出來て居り、所有權の如きも國家が之を認める爲め、如何にも能く綺麗に出來てゐる。つまり淨化されて居る。故に所有權なるものは恰も立派な紙に書いた辭令を貰ふ樣なものである。昔は凡て自分で遣つた。辭令に依るのではなかつた。占有したものが占有したのである。然れば所有權の性質は今日のやうな立派な國家が發達しない時代の法律において最も能く其の性質を窺ふことが出來る。

（三）法律に於ての物權の三種

今日の法律に於ては所有權が物權中最も完全なるものとされて居る。蓋し所有權は總ての關係に於て、將たまた總ての方法を以て、その物を支配する權利であるからであらう。故に所有權を解釋して物に關する總括的支配權であるとも言ふし又完全なる物權であるとも言ふ。今日日本の法律に於て物權は三種に區別されて居る。所有權と他物權と占有權とが是れである。

所有權は卽ち前述の如く最も完全なるものであるが、他物權は或る關係に於てのみ物を支配する權利、卽ち他

人の所有物の上に行はるゝ權利たるに過ぎない。或は所有者の權利を制限し、所有者以外の人をして所有者に屬する權利の一部を行使せしむる目的のものもあり、或は所有者以外の利益の爲めに所有者の權利行使を制限するのみを以て目的とするのもある。地上權又は永小作權の如きは土地の所有者に屬する權利を地上權者と永小作權者とに與へるのである。質權又は抵當權の如きは所有者に屬する處分權を質屋又は抵當權者に與へるのである。消極的地役權の如きは地役權の利益の爲めに土地所有者の權利行使を制限するに止まるのである。

元來所有權なるものは物の占有を以て唯一の內容として居る權利であるが、所有權と他物權とは物を支配する權利であるから、此等の權利を有する者はその物を支配する權利があるけれども、之を占有する權利はない。占有權は之と違つて物を占有する所から發生する權利であつて、物を占有すると同時に此の權利を得、占有を失ふと同時に此の權利も消滅するのである。從つて占有と占有權とは離る可らざる關係を有つて居る。從つて物權の中でも特別なものである。併し斯く物權を區別するは則ち國家の意思を分析するのであつて權そのものゝ淵源に溯る譯ではない。權の淵源を指示するやうな標式はない。標準や尺度のあらう筈もない。發達したる國家に於て單にはそれが淨化されて居るだけである。今日の國家は發達して居るから、權利と言へば國家が唯一の原動力であるやうに心得られて居るが、然し此の論法では所有權乃至一般の權利の性質を明かにすることは出來ぬのである。

(四) 所有に對する思想の變遷

蓋し今日の如く發達したる國家に於ては、國家が法律に依つて認めると云ふ以上、卽ち國家の意志として之を認めるのであつて、所有權なるものは要するに國家の意志であるのだ。個人が或る物を所有して居るのは國家の意志を體得して居るのである。從つて所有權は絕對のものであると云ふ事になる。玆に於てか今日の法律家は所有權を解釋して、此の權利

を有する者即ち物の所有者は、その意の欲する所に從ひ權利の目的たる物を使用し、收益し、處分する等、物の上に完全なる支配權を有するものであると說いて居る。則ち所有權を有する以上は他人の迷惑とならざる限り如何樣にも之を處分することが出來ると云ふのである。殊に土地は天を極め地を極めて勝手に之を使用することが出來ると云ふやうに解釋されて居る。唯その制限は他人の迷惑とならぬと云ふ消極的の事に止まるのである。然れど是れは國家を重大に見過ぎたる所の論結であつて所有權本來の性質と社會今日の發達とを顧みざる妄論である。法律の上から言へば、自己の所有物なら自由に之を支配して可なり、自己の土地であれば自己の意の儘に之を處分して可なりで、法律は之を保護して居る。又自己の金であれば如何に之を消費しても可い。社會事業などに寄附しなくとも差支えない。併し之れは社會を無視した妄斷であつて實は法律の根本精神にも合致せぬのである。

諸侯の專制政治であれば、諸侯の意に逆へば或は罰せられ、或は殺される。諸侯の殿中に勤めて居る小姓や女中の如きに至つては、何等の理由なしに單に諸侯の我儘なる意志の爲めに、無慘にも落命した者が幾人あつたか分らない。そこから幽靈が起つて來た。斯くの如き非道にして殘酷なる事も幽靈が出ると云ふことに依つて幾何か制限されて居つた。德川時代に幽靈の話の多いのも詰り人間精神に於ける一種のコムペンセーションに外ならない。現代に於ては科學の力に依り昔のやうな幽靈は出て來ないかも知れぬが、所有權を右の如く解釋し而して之を敢行するなれば、他に何等かのコムペンセーションが起つて來なければならぬ。其のコムペンセーションも亦誠に恐るべきものがある。**社會の憎惡と不交際とが**是れである。そして遂には知らず識らずの間に家が消滅するやうな事になる。

私は一夕竹馬の友にして何十萬だか何百萬だかの財產家となつて居る實業家と會食した。そのとき私はその友に向つて君は莫大なる財產家となり、幸福な人ではないかと言ふと、友人はいや然うでない、金は持つて居るけれども、此の金を**自分の思ひ通りに費すのは宜しくないと思つて、**唯之を管理して居るだけの事であると答えた。私は實業家でも是だけの

志のある者は多くあるまいと深く其の言に感服した。この私の友人の言つた事から稽えてみても今日は社會意志と云ふものが非常に發達して居ることが分る。人は社會の爲めに盡さなければならぬ。金と云ふものは決して自分一人の力で出來る譯のものでない。寧ろ社會のお蔭である。離群索居してアフリカの砂漠の中にでも居つたならば到底金の出來やう筈がない。日本國内でも山の中に居住して居つたならば金の出來やう筈がない。大都會の中に居つてこそ初めて大きな商業も出來、それに依つて儲けられ、隨つて金も出來るのである。即ち社會のお蔭である。勿論その人の力と云ふこともあるだらうがそれ計りでは決して金や財產やその所有の出來るものでない。して見れば、自分の財產も社會的意味のあるものであるから、それを所有するからと云つて、之を己れの意志の儘に處分するのは宜くない。之を管理すると云ふ心持にならなければならぬ。然し管理するにしても管理の意味を忘れてはならぬ。管理の意味さへ忘れなければ其の財產は其の人の自由になる。一文なしでは管理の必要がなく、其の日の生活に營々として居れば、管理どころか寧ろ管理される。管理するのが幸福であるとすれば、それだけの幸福は其の人の力、或は其の人の運である。其の運に當つて居る人は社會の意志がその財產の上に混つて居ることを考へなければならぬ。

(五) 土地所有に就いての學說

所有權の對象物は種々あるが土地が最もその根本的なるものである。土地の所有に付いては昔から殆んど一定の說がある。スペンサーは『正義は土地の所有を許さない、何となれば、若し土地が一個人の爲めに所有せられ、その個人意志に依り絕對の權利あるものとして行使せられ、又他の人々も同樣な意味に於て土地を使用することがあつたならば、地球の全面は數個人の掌中に落ちて了ふであらう』と說き、ラブーレイは『所有權は社會的の產物である、社會がその習慣を變する每に土地に於ける政治的特權をも變ずることが出來る、何となれば、社會以前に又は社會以外に於ては何も無いから

である。社會に於て唯單り權利の淵源があるのみである』と言った。

土地の所有權を認むる以上は之を子々孫々に讓ることが出來る。乃ちその子孫は勞働しないで非常な財産を得ることになる。之を非難する學者も甚だ多い。スチユアート・ミルの如きも既に之を論じて居る。獨逸の哲學者フィヒテの如きも『財産は眞正なる公共的制度となり、個人的の性質は絕對に之を失ふ樣になる、個人の爲めに正當に得られる財産を保護するだけでは十分でない、各人をして正當なる勞力に對する正當なる報償を得せしむることを要する、勞働は一切人に取つての義務である、勞働しない者は他人に害を及ぼす、從つて罰に値するものである』と論じて居る。然らば正當に得られたものを保護するとは何であるかと云ふと、例へば所有權の或る物を親から讓り受ければ則ち正當に得られたものであるが、之を保護するだけでは十分でない、各人をして勞働せしめ、勞働に報ゆるに正當の報償を以てせなければならぬと云ふのである。ラブリイの如きは各人の勞力に相當するものと云ふことを格言として此の樣に進んで行かなければならぬと言ふて居る。正直なる學者識者の意見は皆斯う云ふところに歸著して居るのである。

所有物を論ずる時は土地が最も大なるものであるが、其の他の物にも此の意味はあるのであるから、總ての物は皆土地と同じ樣に論ぜられなければならぬ。唯土地が最も重大なものである爲め土地だけを多く論ずるのである。ヘンリージョージは『少しばかりの土地を有つて居るとそれが非常な財産となる、子孫は遊んで暮らす、而もその他の者は貧乏する』と述べて居る。その位に土地は總ての所有物中の最も重大なるものである。**土地所有についての議論が古來絕えないのは此**の故である。スペンサーの言つたやうに、一個人の自由意志の爲めに土地の使用されることが良くないとすれば、その他の物も公共的の意味に於て使用されなければならぬことゝ思ふ。

(六) 所有權の國家的社會的意志

玆に於てか私は所有權なるものは今日の社會に於ては決して單に國家の意志ばかりに依つて構成されて居るものでないと信ずる。理論の上から考へられたことが今日では社會の上に實際的に現はれて居る。即ち社會意識の發達は事實となつて現はれて居る。土地の所有者はその意の儘に之を處分することが出來るかと云ふと、法律學者は第三者の權利を侵害せざる限りに於て出來ると說くけれども、之は法律と云ふ一方面の觀察であつて、決して全局の上から立論されたものではない。法律的活動ばかりが人間の全體ではない。法律は重大なもので、法律あるが爲めに我等は生命財産を保護されて居るけれども、法律以外に於て又重大なる要素のあることを忘れてはならぬ。則ち土地を所有して居れば、其の土地に對して隣人は何を希望して居る乎、其の土地が廣ければ廣いだけ他人はこれを何と觀て居る乎と、先づ自己を忘れて客觀的に考えなければならぬ。個人所有の土地が餘りに廣過ぎる時は第三者はその中に道路を貫通して欲しいと思ふかも知れない此の第三者の意志を無視して、その所有地の中に道路を貫通しないからとて、何等第三者の權利を侵害しては居らぬけれども、是れは一人考えの消極的思想である。近隣の意志は其の土地の上に存在して居る。その意志が一人や二人でなく多數であるとすれば之れを無視し之に抵抗するのは善くないのである。

更に大なる土地であれば、社會多數の意志は一層その上に動き、何等か公共的の意味に之を用ひたいと思ふやうになる他にはあれ程に纒つた土地がない、所有主は金のある人であり、又土地の位置も好いから、之を公共的に使用することが出來れば非常に宜い、と云ふ社會的意志が強く動いて來る。此の意志を無視し又之に逆らうのは最も不善な事である。之は法律論では解釋の出來ない問題である。法律家は法律だけに重きを置くが、社會意識の著しく發達したる今日に於ては法律論だけで財産とその所有權を片付けるのは間違つて居る。之を敢てすれば世の中に又ぞろ幽靈を發生せしむることゝ思ふ。法律論だけに嚙り付いて、肝要な人間生活の全體を忘れる事があつたならば、第一自分の爲めにもならぬし、又社會の爲めにもならぬ。大正の聖代に幽靈など出ることのない様にさせたいものである。

土地の所有權は自己の意志を第一とするとは言ひながら、國家が之を保護して居るから、國家としても亦その土地に對する意志を有つて居るわけだ。場合に依れば土地を國家に取上げなければならぬと云ふことは現に土地收用法がそれを示して居る。從つて個人と國家との關係から言へば、土地を所有すると言ふても、自分が勝手に之を處分することが出來ると云ふ意味においての所有ではなく、國家の都合の好い限りに於て之を預つて居ると云ふ意味である。之が卽ち善意ある者の解釋であらうと思ふ。若し惡意の人の解釋であつたならば、自分の土地であるから之を勝手に處分することが出來ると言つて踏ん張り、土地所有の權利を濫用し、土地收用法にも應ぜぬ事になるが、それは非常に惡い事である。今日は凡ての人が善人でなければならぬ。惡人は容れられぬのである。

然れば所有權なるものは、自己の意志と努力とを以て根本要素となすとは言ひながら、その意志がまた自ら國家の意志社會の意志、隣人の意志と互に相調和せんとする傾向を有つて居るのである。國家を無視し、社會を無視し、隣人を無視しての所有權は今や大なる罪惡となつた。今後の社會人は法律のみに拘泥せんとする世間知らずではなくして常識を備えた普通人でなければならぬ。所有權なるものは玆に於てか社會的のものであるのだ。

我國の都市住宅問題（三）

池田宏

建築界の趨勢と住宅供給（承前）

更に我國の住宅問題に取つて憂ふべき事は彼の勞働問題の誤認である。八時間勞働制の如きは已に懶惰の風習を職人の

る。震災後の東京でバラックの建てられて居る所を見ると一坪十五人掛つて居ると云ふ有樣だ。若し之を永久建築に改めんとすれば一坪三十人位も掛るだらうと思はれる。之では復興の前途が寔に氣遣はるゝわけで、タトヒ永久建築に對して坪何十圓かの補助があつても、理由なくして拂はしめられる勞銀の爲め復興を妨げられること幾何なるを知らないであらう。是れ勞働時間制が賃銀との關係に於て意義あること又能率との關係に於て維持せらるべきことを理解せざるに因する結果で、甚だ不合理な事であり、また極めて遺憾なことゝ思ふ。然れば此の方面に對しても相當な方策を立てることが我國の住宅問題解決上決して忽かにすべからざる事であると考へられる。

間に瀰らして居る。此の惡風が殊に建築に關係する諸職人の間に著るしいやうに思はれるのは余の深憂に堪えざる所である。

凡そ建築費の多寡を決する條件としては建築材料、賃銀、金利、地代等を以て主要項目とするが、此等の項目は今や揃ひも揃つて前顯の如き理由で漸次上向きになり、何時平衡を保ち得るか今日に於ては豫期することが出來ない。加ふるに國も公共團體も費用は漸次多くなつて來る。家屋税若くは之に代るべき戶數割と云ふやうな税が漸次嵩まる。或は殆ど人頭税と言つて可さゝうな職工税まで課せられ、その他車税とか、荷車税とか、種々の税まで段々誅求されて來る。其の內には電燈や瓦斯の消費に對する税までも起るべく、既に煙草税は引上げられ、郵便税も引上げられ樣としてゐるが、地代の如きは其の增率と共に益々家賃を高くせざるを得ないのである。

自由供給が營利經濟の下に行はれるのには自ら一定の限度がある。則ち住宅供給といふ都市における營利經濟が成立つのは、家屋建築費の元利償還の許す範圍に於て決定せられた家賃が住居人に依つて支拂はれ得る間だけであつて、此の家賃が拂ひ得なくなれば、營利經濟の活動は停止せざるを得ないのである。如何に家賃が高くなつても、それを拂ひ得る人の在る限りは、營利經營として住宅の供給はこれを續けて行けるが、餘り家賃が高くなつて、間借生活をしても家賃の負擔に堪へぬ者が多くなつて來ると、貸家事業は遂に營利經濟として成立ち得ない事となり、住宅の供給はピタリと止まり

既成住宅を適當なる情態に維持し修補することも出來なくなる。

今日の正常なる地代、正常なる利子、正常なる建築費、正常なる勞働賃銀に依つて家が出來たとしても、果して今日の收入を以て總ての人が人間らしき生活を爲すに必要なる住宅を得ることが出來て居るであらう乎。今日の如き都市の情況であつては今日の收入を以てしては家賃を支拂ふことの出來ない者が澤山ある。細民地區に密集する巨萬の人々は正にそれであり、其他少くとも月收百圓内外までの小額所得者は殆ど之れに準ずべき者である。是れ大都市に於ける常態であつて其他の都市に於ても同樣である。英國のキツボイン・テイラー氏は私人の營利經濟的企業では迚も極貧者の爲めに暮らし宜い家を供給することは不可能だと云ふことを頻りに主張して居るが、之が既に我國の各都市に展開されてゐる事實で今や此の問題の適當に解決せられむことを期待されて居る。殊に我國に於て困つた事は、獨逸と同樣、非常に郊外における土地の地價が高く、地代が甚だしく不廉な事である。ドイツに於ては彼等の民俗が集團生活を欲する結果、好むで都市の中心に密集的生活をする風あり、イギリス人やベルギー人の如くに獨立した家屋を持つて郊外に住居することを欲しなかつた。卽ち都市の中の仕事場の近い處に成るべく密集して住居した爲め、遂に其の弊に堪へざるに至り、漸く住宅問題に覺醒して漸次外に向つて都市の發展を導かなければならぬ事となつた。是れ謂ゆる建築線法とか目的組合法とか云ふやうな法律が發布され、郊外未開地の開發に對して市街計畫を豫定すると共に、交通、建築等の行政の範圍に於ては市及び其の郊外の町村を同一行政の下に置かしむる事に依つて都市の發達を市町村共同で行ふ樣になり、市內の切迫せる住宅問題を解決する爲め、更に郊外に對して電車を敷設せねばならぬ事情に立至つた所以である。然らば元來密集生活の好きなドイツ國民は、此の場合何を造つたかと云ふと、郊外の一構內に幾多の家を有する所の謂ゆる兵營式建物を造つたのである。則ち數層數十室時には百室を超ゆるが如き共同住宅を造つたのである。然るに此等大建築が郊外に出來たことは其の附近の地價を暴騰せしめ、同じ都市に對して同じ利便を有し、同じ程度の效用ある土地であつても、共同住宅が有ると無

を作り、[illegible]相累積し獨逸の住宅問題をして非常に困難ならしめたのである。獨逸の郊外における[illegible]

いとで地代に非常な差異を生ぜしめた。是に於て地主は競爭して共同住宅を誘ふことゝなり、共同住宅の出來る處に地代を作り、遂にそれが相重疊し相累積し獨逸の住宅問題をして非常に困難ならしめたのである。獨逸の郊外における地代が英國のそれよりも三十割乃至五十割といふやうに非常に高いのは則ち此の故である。

此の郊外地の地代の高い傾向は我國の都市に於ても著るしい。我國に於ては郊外に交通の使が開けさうに見えると早く既に郊外の地價を著るしく釣上げしめる。土地に對する思惑が之を誘發するのである。獨逸では何十家族時には百家族以上を包容する共同住宅が出來る爲め地價が昂騰するのであるから、其の共同住宅が市內に於ける密住生活を再演せしむる點に於て住宅問題を再び喚起する結果になるにもせよ、單なる住宅供給策の上から觀ればまだ忍ぶべきである。然るに我國に於ては、たゞ電車の敷設計畫があると言ふのみで直ちに地代を騰貴せしめる爲め、思惑に依る假想地代をも實地代の上に背負込まされる事になつて、住宅問題に非常な惡影響を與へることは默過し難い事態である。人爲的に都市內外の土地を騰貴せしめて實地代以上に思惑料を拂はしめることは甚だしき罪惡であると思ふ。不幸にして此の罪惡を敢てする心なき徒輩が我國に多いのである。我國の六大都市の郊外は此れ等の罪惡を敢てせんとする大小の企業家に依つて獨占されて居ると言つても過言でない程に廣汎に亘つて買占められて居る。此等の人々は土地の値が自分の思ふ所まで騰貴するまで放棄してゐるが此事が住宅問題を一層紛糾せしむるのである。

イギリスでも戰後我國と相類した事情が發生した爲め、建築費が漸々嵩み、職工の賃銀も增加する一方で、資本を得ることが困難であるが上に、利子の割合が高くなつて來た結果、今日では建築費の三分ノ一を誰かゞ負擔して與れなければ拂ふ力も建てる力も無くなつて來た。イギリスでは之を國費で負擔して遣らうと云ふので、建築費臨時補助の途を開らき營利經濟に依る住宅供給策を維持して居る。我國でも誰かゞ建築費の何割かを持つて與れなければ今日の正常なる建築費では家は既に營利經濟の目的物にはなり得ない事になつて居る。唯その限度の那邊に在るかゞ問題で、その割合如何は言

ふまでもなく各都市の實情に支配されることであつて、各地方に於て精密に正確なる計算をして見なければならぬのである。精査の結果、若し何うしても營利經濟として家を供給することが出來ぬと云ふのであるならば、其の限度以上のものは之を營利經濟以外に於て處置する方法を考へねばならぬわけで、然らざれば營利經濟に依る住宅の供給は停止して都市の要求に應ずることが不可能となり、住宅問題は玆に惡化するのみである。ドイツに於ても大體イギリスと同樣で、一定の時機を捉へて、戰時中種々の事情に依つて家賃の高まつた部分だけは國費で負擔しやうと云ふ方針である。我國に於ては之を如何にする乎。各都市の實狀が既に之を要求して居るとすれば何としても放任して置くことが出來ない。放任すれば營利經濟に依る住宅供給の活動が停止するから之れは是非國なり公共團體なりで何とか措置するより外ない。篤志の人人の活動や企業者の舍宅供給にのみ俟つことは出來ないのである。

住宅の最低標準の向上

小なる一室に一家族を擧げて居住しなければならぬ事や、一室に數家族居住したければならぬと云ふやうな情態は、既に記述した通り、大都市になるほど甚だしいのであるが、此の事は住宅の最低標準を向上せしむることに依つて匡救しなければならぬ。イギリスの例を示せば、ロンドンを除ける人口五萬以上の都市の總平均は、一室の居住家族數が全人口の二プロセントに過ぎない。二室に居住する者と雖も九プロセントに過ぎない。それにも拘らすロンドン市に於ては一室の居住者數が殖えて行く傾きを有つて居る。ベルリンの如きは一室の居住者數が五〇プロセント、二室の居住者數が一八プロセントとなつて居り、甚だしきは一室の中に十四人も住んで居る處がある。斯かる極端な例が未だ我國に無いのは幸であるが、此の世界の趨勢に稽ふる時、自然の儘に放任して置けば、必ず數年ならずして我國の大都市も此の弊に陷るであらうと思ふ。大都市に成れば成るほど一室の居住者數が增加し、共同住宅の如き大建築型式を採用するに隨つて其の率が

昂まつて來ることは、前述の實例に依つて之を推想するに餘りあることゝ信ずる。

何ゆえ斯樣に一室の居住者が多くなることが住宅問題として重要である乎。何ゆえ吾人は群に過ぎる所の都市生活を住宅問題に於て喧しく說かなければならぬのである乎。此の理由は曾てパリーに於て九年程に亘つて調査した統計事實を借りて來ると最もそれを雄辯に語つて呉れる。第一に調査したブロックは二百八十一の戶數より成立つて居る。其處には人口が九千七百十五人あつたが其のブロックに於て結核に因る死亡數は百十四人であつた。第二に調査した所のブロックは八十九戶、此の人口四千四十三人で、其のうち結核に因る死亡數は二十九人であつた。第三に調査した處は百五戶より成り、人口四千二百十二人を含み、五十二人の結核死亡者を出して居る。第四に調査したブロックは五百五十九戶、人口一萬六千五百九十四人を含み、百十五人の結核死亡者を出して居る。第五に調査した百八十二戶、人口一萬一千八百六十人のブロックからは、結核死亡者七十八人を算し、第六の調査區は三百十八戶、一萬二千六百二十六人であつて、其の人口中から百十一人の結核死亡者を出して居る。更に此等各地區に於ける數年間の平均を見ると、一千人當り結核死亡者は第一區に於て十二人二分、第二區に於て六人五分三厘、第三區十人四分、第四區六人四分五厘、第五區七人一分二厘、第六區八人二分八厘である。ポール・デュイテーの言へる如く、結核は暗い所の病氣であるし、又ミシュレの言へる如く、盛んに成育する人には十分に日光の通る室が供給されねばならぬ事、恰も花に日光が十分供給せられることを必要とすると同一理であつて、人類には生活上何うしても明るい住宅を供給する必要があるのである。

結核病なるものは單純に住居のみに其の原因を歸すること能はず、人その人の體質にも因る事であらうし、榮養にも因ることであらうし、種々な影響もあらうけれども、住宅が重き要素を占めることは九年間に亘るパリーの統計調査に依つて明かに知ることが出來る。之と同樣の調査はイギリスのエヂンバラに於て行はれ、マクセルウヰリアムソンが住宅改良の前後に於て正確なる調査統計を發表して居るが、それに據ると、その地區改良前の死亡率の一千人につき四十五人のも

のが改良後は十五人となり、結核死亡者の一千人につき七人一分のものが改良後は僅に〇・四分となつて居る。此等の事實は住宅の最低標準を向上せしむることの必要を最も能く説明するものだと思ふ。又チャルヤー氏が最近調査した所に依ると、一室に於ける居住者の死亡率は一千人につき一・七六であり、二室に於ける居住者は一・二六、三室の居住者は〇・九六、四室以上の居住者の死亡率は〇・六六である。此等の事實の外、或は幼兒の死亡率とか、或は消化機系統の病氣とか或は神經系統の病氣とか、呼吸機病とか、腸疾患とか、種々の方面に於て種々な學者、實際家等が正確なる調査を遂げた結果は、何れも此事を十分に裏書して居るのである。之れは信憑すべき最も適確なる事實である。猶ほ其の詳細はジョージ・ニューマン幼兒死亡率論に就いて參照せられむことを希望する。

住宅問題の現狀と問題發生の原因

住宅問題の現狀を概觀すれば、畢竟するに我國の都市生活は極めて過密の情況に陷つて居り、住宅の素質は劣悪を極め家族生活を營むに殆ど適して居ないと云ふことに歸着する。都市の區内に於ては勿論、都市の區域外に於ける隣接町村に於ても、戸口は頗る稠密を極め、その密度は寧ろ大に過ぎて居る。その過密情態はパリー、ベルリンの兩市に亞ぐ有樣で歐米に於ける普通の都市に於ては殆ど見ることの出來ない程の過密情況である。第二はその上に都市生活なるものが頗る混亂の情態に陷つて居る。爲めに住宅のある地區は住宅地に缺く可らざる保障が缺けて甚だしく不健全であり不合理である。加ふるに細民地區若くは之れに準ずべき市街地が餘りに多くそれが都市の内部並びに其の周邊に散在して居る然るに他面に於て以上の一般情況に應ずべき住宅の數は年と共に益々不足し勝である。住宅の供給は主として營利經濟の運用に俟つのであるが、其の裏面に於ては物價や勞銀や金利の關係に制せられて、企業主をして勢ひ建築を粗悪に爲さゞるを得ざらしめ、建築敷地も極度に節約せざるを得ない情況に立至らしめ、之が爲め新たに加はりつゝある住宅は、衞生

保健にも、家族生活の保障にも、保安上の要求にも適せざるものとなり、現に其の用に堪へぬものと雖も尚且つ之を其の儘に放任して置かなければならぬと云ふ情態である。夫れにも拘らず住居に對する吾人の欲望は向上せしめられて居らず住宅問題の眞相が何處にあるかゞ十分理解されて居らない爲め、生計費中節約し得る方面は常に住宅であると云ふ風である。此等の事情が互に重なり合つて、住居をして非衛生的ならしめ、反道義的ならしめ、非文化的ならしめ、生計に種々の壓迫を加へて、多數人をして人文の發達上に十分その力を獻げしめることが出來ぬ様になつて居る。是れ現在の我國における住宅問題の眞相であつて甚だ憂ふべき現象であると謂はればならぬ。

抑も住宅問題を斯かる現狀に至らしめた原因は那邊に在る乎、一言にして之を掩へば、工業革命に基く都市人口の集中運動の極めて急激なりしことが其の重要原因を成して居る。我國に於ても最近過去十年ばかりの間に地方の人口が都市に向ひ益々集中さるゝ傾向あり、それと相俟つて工業が益々都市に勃興しつゝあるが、此の傾向は恰も前世紀後半に於ける歐羅巴諸國の情態と同じである。都市に向つて地方人口の流入する勢は、都市に工業の榮ゆる間殆ど停止することの無いもので、卽ち之が都市において常に住宅問題を醸成する原因となつて居るのである。此の原因は孰れの國の都市に在つても將來永久に亙つて殆んと根絶することの出來ぬものである。

また我國の住宅問題を今日に迫らしめた事に就いて大なる責任を分たねばならぬものは建築物に關する法規の不備である。殊に營利經濟を以て供給する住宅の要求に對して何等干渉する所のなかつたことが、住宅の素質をして非常に劣惡ならしめ、更に住宅問題をして深刻ならしめた重要原因である。余は建築自由の原則が餘りに忠實に我國に於て守られて居つたことを遺憾に思ふ。要するに住宅に對する國民の慾望が極めて低かつたことは、住宅に對する國民の理解を正しく導くことの遲緩なりし所以で、之がまた建築自由の原則に對する大なる例外を認めしめることを敢てしなかつた事由であらうと考へる。然も其の結果として、住宅問題の陰に潜んで居る人生の害惡を顯然と見せ付けられる以上、吾人は何として

も建築自由の原則に對して斧鉞を加へ、これに向つて社會と時代の變化に適應するやう機宜の改正を加へ、殊に住居に關する法則の上に一定の方針を確立するの急に迫つて居ることを信ずる。

都市に人口の集中する傾向が工業の發達と共に益々增進することゝ、建築法規の不備であつたこととは、何と言つても我國の住宅問題を現狀の如き悲慘な狀態に導かしめた重要原因である。隨つて此の二者に對する備への出來ぬ間は、我國の住宅問題は如何なる方面に如何に努力しても何等效果がないと思ふ。現に我國に於ては前陳の如く旣に尠なからぬ資金を住宅供給政策の助成方面に出して居る。大藏省の預金部より融通せる總額は、大正八年度以降十二年度まで五ケ年間に五千二百五十六萬一千四百圓に達し、簡易保險の積立金中より運用した金は同期間に於て一千三百三十三萬八千二百六十圓である。然るに此の低利資金の供給に依つて出來たところの住宅數は總計二萬に達しない。然も此等住宅の情況は、何人でも發見し得るが如く、殆ど今日まで我等が呪つて來た街が更に增加したと云ふに止まる。勿論中には相當な計畫の下に出來上つた住宅地もないとは言はぬが、その環境に於て、その素質に於て、概ね今日までの住宅と大差ないものが再造されたと云ふ樣な情況である。右は畢竟都市に於ける人口集中といふ自然の勢に對して、豫じめ之を適切に調節すべき計畫を立てないで無暗に住宅を建てた爲めであり、又新らしく出來るところの住宅に對して、都市生活そのものゝ要求する住宅制度がありて之を調整すると云ふ事になつて居ない爲めてある。斯る情態では、折角多額の資金を投じても、投じたほど役に立たぬと云ふ結果を見る譯であるから、大いに考慮を拂はなければならぬ。

支那の勞働運動と赤化の手

滿鐵社會課囑託　二　村　光　三

上海、青島、天津方面の勞働運動が起つたとき私はその實地について一通り視察した。由來支那に於ける勞働運動の中心地は上海と廣東であつて、其他の地方には餘り大規模の運動は起らなかつたところ、大正十四年五月上海に一爭議が勃發すると、それが殆んと支那全土にわたる一大勞働運動と化し、而かもその勞働運動なるものが排外的國民運動となつて學生までが夫れに加擔すると云ふ狀態になつた。斯くの如きは支那の是迄の勞働運動にはなかつた事で、斯かる傾向を生じたことは、對支事業家の最も注意せねばならぬ所である。支那の勞働運動が斯くその性質を變化したのは何故である乎その原因は那邊にある乎、是れ大いに研究を要する事柄で、支那と經濟上最も深い關係を有する我國、殊に滿洲に多大の投資企業をなせる我々日本人は、決して之を等閑に附してはならぬのである。

世人周知の如く、八世紀中葉に起つた英國その他の產業革命は、從來の手工業を葬つて現に行はれてゐるが如き機械的大工業卽ち資本制工業を打建てたが、この機械工業はその後各國に競ひ起り、日本も亦之れに倣ひ、遂に今日の如く世界的のものとなつた。現に當面してゐるところの資本主義の特長と弊害とは一切この產業革命に端を發してゐるのである大量生產の發達と資本集中の傾向は、遂に無數の無產者勞働群を作り、貧富の懸隔を甚だしからしめ、且つ一切の生產物を商品化し、勞働者をも之を商品視するに至り、斯くて勞働階級對資本階級の對立を促し、世界の何處においても勞資の爭鬪が激しくなつて來た。この經濟的變革はまた社會上並びに政治上の關係をも動すことになり、資本主義思想を發達せしめ、資本家階級をして政治上並びに社會上の優者たらしむるに至つた。然るに十九世紀に入るに迨んで、資本主義の弊

害と共に資本家階級が餘りに優勢となるに從ひ、勞働者もまた漸く覺醒し、智識階級の人々はこれを援け、種々の勞働組合を設け、その團結力によつて勞働者の力を强め、さうして彼等を奴隷的境遇より解放さすべく大いに努力する樣になつた。是れ勞資爭鬪の起る所以である。現在の如き資本制經濟組織の下にあつては、勞働者の數益々增加し、彼等の生活は愈々困難を加ふる一方であるから、彼等が團結してその力を强め、以てその經濟的立場を鞏固にしやうと圖るのは當然で勞働問題が近時社會上の重大問題となつたのは此の故である。

小資本時代即ち手工業程度の時代には、資本家側と勞働者側との間に十分意志の疎通が圖られて居た爲め、爭議らしい爭議は起らなかつたが、大量生産の機械工業になると、多數の勞働者を使用するので、資本家と勞働者との間に意志が疎隔し易い。勞銀さへ與へれば幾らでも勞働者を雇傭することが出來るといふ考えから資本家又は事業家は兎角勞働者を輕く視、若し事業が閑散になれば遠慮なく解傭するといふ有樣で、兩者の關係は只一通の契約書によつて結び付いて居るに過ぎない。寔に冷かなものだ。斯くして勞働者も一の商品と化したのである。勞働者と雖も人間であるから、賃銀といふ物質を受くるのみが能でなく、精神的にも何等かの向上を希望するものである以上、勞働者を斯く商品視するは間違つてゐる。如何なる產業も資本と勞働の二ツ力を結合しなければ其の發達を期し難いのであるから、資本家も勞働者も互ひにその人格を認め、事業の上に一致協力する爲め、常に意志の疎通に努め、勞働者にも產業に關する發言權を與え、若し利益を擧げた場合には、資本家の方からその利益を勞働者にも均霑せしむる樣にしたならば、勞資爭鬪を絕對に杜絕するをとは出來ないとしても、大いに之を緩和することが出來ると思ふ。是れ勞資協調の必要なる所以である。或は之を以て一種の理想論若くはユートピアと視るものもあらうが、英國には彼のショップコンミッテーなるものが存在し、工業委員制度は各國の產業界に行はれ、工場限りの外、產業全體に亘る勞働協調も各國に行はれて居るのであるから、勞資協調は決して**理想論でもユートピアでもなく、寧ろ既に實際問題となつたのである。**

そこで支那の勞働問題であるが、之は前に述べた通り單なる勞働爭議と見做すことが出來ない點があつて、識者はこれを一種の國民運動であると解釋して居るし、私も同樣な觀察を下して居る。隨つてその對策は餘程深く考ふる所がなくてはなるまいと思ふ。元來支那の勞働者は智識も進んで居らず又自覺力も乏しいのである。それにも拘らず、全支那に亘つて其の勢力が扶殖され、而かも爭議が持久的に根强く續けられ、一種の國民的運動とまでなつたのは、その背後に智識階級者の在るが爲でもあるが、一はその奥に勞農露西亞の赤い手が延びて居る爲であると思ふ。國民運動化した勞働運動の起つた時、當時已に新聞紙上に報道された通り、勞農露西亞から上海の勞働本部に莫大の運動資金が送られ、それが各地の勞働團體に分配されたといふ事である。是れ謂ゆる赤化の手である。赤化の手は今後必らず勞働運動の上に伸びて行くに違ひない。支那赤化の目的は從來の對外關係を一氣に破棄し、支那にソヴエート式の新たなる國家を建設しやうと云ふのであるから、此の如き目的の下に起る勞働運動に對し勞資協調を望んでも無駄な事であるが、滿洲においては猶ほその餘地があらうと思ふ。是れ日本の資本家乃至事業家の考慮を要する點である。

こゝに更に溯つて勞農露西亞の赤化手段を一言しやう。革命後の露西亞は共産主義を以て至上無二の福音と見做し、帝國主義と資本主義に向つて敵對行爲に出で、西歐においては英國、東洋においては日本を最大最强の敵としてゐる。然るに此の東西の二大帝國には容易に齒が立たないので東洋に對しては先づ支那を赤化の第一線としてゐる。外蒙の赤化は已に成就された。シベリアから北滿洲にその赤化の手を伸べ、次いで北滿を赤くすれば、南における廣東の赤化と相待つて支那は次第に赤色化し、滿洲も隨つて赤くなり、それが日本の新領土たる朝鮮に及へば、日本も亦勢ひ赤くなるとの見地から、今日は主として赤化の手を支那に動かして居るのである。支那の現狀は實に混沌たるもので、その混沌の隙に赤化の手が伸びるのであるが、國民は武斷政治に倦怠を生じ、一日も早く文治政治に入り、民力の休養と涵養を圖つて貰ひたいと望んでゐる。露國はこの形勢を見て國民黨一派と氣脈を通じつゝ種々の劃策を施して居る。上海に蜂起した最初の勞

働問題の如きは左したるものでなかつたが、此間に國民黨の左翼の手が伸び、英國の横暴なる行動に對し勞働者が極度の反感を抱いてゐるのを煽動した爲め、英國人の投資せる諸會社の勞働者は一切の罷業或は騷動を起し、引續いて我が日本人の關係會社に飛火するに至つた。それが絶體安全地帶として樂觀されて居つた青島や天津にも及んだ。青島における各工場の勞働者は何れも山東省出身者で、他の勞働者に比し性質從順、忍耐力强く、身體强健であるのみならず、低廉なる賃銀に甘んじ、如何なる勞務にも服するといふ狀態であつたが、それが爭議に加擔するに至つたのは大なる變化と言はなければならぬ。何うしてさう成つたかと云ふと、國民黨の左傾派の煽動と共に、その奥に赤化の手が動いて居たからである。支那の赤化を杞憂であるなどゝ樂觀しては居られぬのである。

露西亞の赤化運動にも一理はある。即ち行詰つた支那を救助するには、一旦これを赤化し、革命當時の露西亞の如く對外關係を一先づ打切り、ソヴエート式の新國家を建設し、改めて對外條約を締結するより外に復興の方途がないと觀て居るのである。世界列强より各種の利權を奪取され、イムペリアリズムの脅威を受けて手も足も出ない樣になつた支那として、此の議論に共鳴する者があるのは當然で、國民黨の左傾派の如きは此の革命的手段に勞して居るのである。それが支那赤化の第一階梯となるのだ。私は世の識者と共に最近の支那における勞働運動を一種の國民運動であると見做すと共に之を以て東洋に於ける露西亞の赤化運動のスタートであると斷言して憚らない。それで今後とも支那に起る勞働運動は必ず革命的の國民運動となるであらうと思惟するのである。(文責在記者)

聲光地を振ふ

在青島　山田英治

年の始めの新聞雜誌等を見るに每年大抵その歳の支干に關する因緣話を記載して居る樣である。そこで本年は自分も何か一つ年に因んだ虎の話でもして見たいと思ふたが何分淺學寡聞の自分であるから是れと云ふて諸君の前に恭しく呈示するやうな珍話柄は無い。併し自分は多少宗門の事に趣味を以て居るから、それに關した虎の話を試み、そしてお互に新年早々精神上において虎の如き大勇猛心を獲得する樣に奮勵努力したいと思ふ。

達磨大師より四世に當る道信禪師（以下單に四祖と稱す）の傍出として牛頭禪の一派を闡揚した牛頭山の法融禪師は、學德共に傑出した巨僧であつて、未だ四祖に見へざる以前において已に百鳥花を銜んで師の前に獻ずといふ樣な靈感を示して居つたのである。併し禪師は夙に四祖の高風を聞いて常に敬慕の念を懷きながら牛頭山幽棲寺の北巖の石室に孤影寂然として宴座しつゝあつたのだ。然るに時節到來端なくも四祖と會見するの機を得るや大いに喜んで慇懃に祖を別の小庵に請じた。四祖は誘はるゝままに庵前に至れば、こはそも如何に、虎狼の類が庵を繞りて彼處此處に臥して居ると云ふ有樣、そして四祖を見るや、其れ等のもの一齊に起つて哮吼し初めた。四祖は覺へず兩手を擧げて怖るゝ勢ひをなした。すると法融禪師は冷然微笑を湛へて隙さず『猶ほ這箇の在る有り』と銳き一本鎗を突きつけた。處が流石は四祖である。是に至つて動かざること泰山の如く『這箇是れ甚麼ぞ』と突き戻した。其の時には最早や虎狼も何も無いのである。法融禪師は之れに對して何等言ふ所を知らず、暫し俛首して居ると、四祖は禪師の常に宴座する石上に於て佛と云ふ字を書いた。之れを見た禪師は悚然として懼れの色を顯はした。四祖笑つて徐ろに曰く『猶ほ這箇の在る有り』。と斯うなると、吾々凡夫は何に此

の野郎鸚鵡返しをしたな、よし、それなら此方にも考へがあるなどと飛んでもない僻み根性を出して了ふが、求法に篤き古人は決してそう云ふ事はしない。法融禪師は是において先の非を悔ひ『乃稽首請說眞要』と言つたと傳に書いてある。それから四祖が諄々と法を說かるゝのであるがそれは虎と縁遠くなるから略して置く。

法融禪師から六世の兒孫に當る慧忠禪師に就ても虎の話がある。それは斯うである。禪師には時に衆僧に供する爲めに穀を貯へて置く廩が二つ在つた。其の穀を竊取しやうとする泥的が時々竊び寄るのであるが、何時も兩三匹の大虎が廩の邊りを恰も犬の如くに張番をして居るものだから、どうしても取ることが出來ないと云ふ始末であつた。或るとき縣令の張遜と云ふ者が牛頭山に登つて禪師に拜謁した。そして寺の様子を見るに一人の弟子も居らん様であるので、兼ねて名僧と聞き及んで居つたのに一人の弟子も居らんとは變な事だと思つて『禪師には何人程の御弟子がお有りですか』と詰問し出した。禪師は笑つて『寺は空寂で誰も居らん様であるがマー三四人は居るだらうよ』と答へられた。そこで遜は『どうか其の御弟子を拜見したいものである』と云ふと禪師は『それ程に我が弟子が見たくば見せてやらう』と云ふて、自分の宴座して居らるゝ禪牀を二ツ三ツ敲かれた。すると禪牀の下から出たのか奥の方から躍り出たのか、この邊のことに就いては少しく傳記の文面が判明しないが、兎に角三匹の大虎が大きな鋭い眼をして吼へ猛つて出て來たとしてある。之れを見た遜の驚愕は一方ならずで命から〳〵逃げ歸つたと云ふ事である。

また馬祖下の尊宿華林の善覺禪師に就いても右と略々似たやうな話がある。或るとき當時の居士として錚々の聞えある觀察使裴休が禪師を訪ふて『禪には侍者を置かれますか』と問ふた。禪師は『侍者は一兩箇あるが客人方には御引合せは出來ん』と答へた。そう云はれると遮二無二見たくなるのが人情で、裴休は立派な禪客ではあつたが未だ這の人情を脱することが出來なかつたと見へて、何でも彼でも見せて呉れと迫つた。そこで禪師は不得已後を顧みて大空小空と喚ぶと庵の後から大小二匹の虎が悠揚として出て來た。之れを見た裴休は心中に驚怖を懐いたが、前記の張遜とは大分人格の段が

違ふから、遂げ出す迄には至らなかつた。禪師は裴休の色を見て二虎に向つて今日は客があるから且らく去つて居れと云ふと二虎は恰も禪師の意を了するものゝ如く靜かに哮吼して去つたと云ふ事である。

その他嚴陽尊者の如きは常に一蛇一虎が身邊に隨從して居つて能く狎れて居たとの事である。虎の如き猛獸でも德高き聖賢には害を加ふることが出來ないのみならず、却つて其の德に自然感化せられて溫良となるに至つては、實に理論や條規を以て律し判ずることの出來ない無心の威力と云はねばならぬ。明覺大師が雲門大師の威風を稱へて『虎頭虎尾一時收、凜々威風四百州』と頌したのも思ひ出されて感想轉た深きものがある。雲門大師の如きに至りては、千虎萬虎爪牙を鼓して一時に襲ひ來つたからとて決して動着するものでなく、其の心の平と其の意の强とは何物にも脅かされず、虎の如きものを掌上に弄することと寧ろ茶飯底の事であつたが、支那四百餘州を振動させた大師の正眼より見來つたならば、虎の如き猛獸を馴致する位は殆んど兒戲に等しいものであつたらうと思ふ。

以上述べ來つたところは聖僧と虎との間において有無相通ずる底の實際現狀を紹介した迄であつて、時に自ら猛虎の威風を現はして大吼一番猝然として山岳に嘯くの活機用を呈する底に至つては、以下序を追ふて述べやう。

『君不ㇾ見大雄山下忽相逢、落落聲光皆振ㇾ地、大丈夫、見也無、收二虎尾一兮將二虎鬚一。』是れは明覺大師が黃檗禪師、超師の活作用を頌したものであつて、實に雄壯な句である。尤も是れは桐峯庵主の僞虎聲を抑下した頌の後半であるから、押韻が變に思はれるが、それは前半の句を見れば直ちに合點の行く事である。

支那江西省の北方に當つて崇嶺層層巍峩として天空に聳ゆる山嶽がある。それは大雄山と云つて唐代の名僧百丈大智禪師が講聖寺を建立せられた名山である。此の山奇巖峭壁疊々相重なるを以て別に百丈山と稱したが後には其の方が通りが能くなつて了つた。その百丈山の嶮峨に據つて禪風を天下に擧揚した百丈禪師の高弟に黃檗希運と云ふ怖ろしい傑物が居た。黃檗は身長七尺と云ふ素晴らしい大男で而かも額に圓珠の如き肉塊があつたと云ふ。之れを惡く言へば眼の上の瘤か

も知れないが兎に角異相を具して居つたのだ。そして此の人は天性禪を會すとあつて無師の自然智を體得して居つたかの樣である。こゝに一ッの挿話があるがそれは省略することにする。

其の後、黄檗が百丈禪師の會下に到つたところ、百丈は黄檗の風采甚だ堂々たるを見て『巍々堂々として什麼の處よりか來る』と尋ねた。之れに對して黄檗は少しも臆せず『巍々堂々として嶺中より來る』と答へた。『左樣か、して是れから何處へ行く』、『江西の馬大師を禮拜せんと思ひます』、『お前はまだ知らんか馬大師は已に遷化せられたわい』、『馬大師には最早や遷化せられましたか、折角禮拜せんとして此處まで來たのに、拙者福緣淺くして遂に謁見することが出來ないとは如何にも殘念でありますが、是れも致し方がありません、和尙は久しく馬大師の御側に居られたのだから、定めし馬大師平日の御垂示を御承知で御座りませう、仍つて願はくば其れを今こゝで御聞かせ下さいませ』と熱誠溢るる言葉を以て百丈に懇願した。是に於て百丈遂に再び馬祖に參ずる因緣を擧した。それは『祖我が來るを見て便ち拂子を竪起す、我れ問ふて云く此の用に卽するか此の用を離するかと、祖遂に拂子を禪牀角に掛けて良久うし、却つて我れに問ふて云く汝已後兩片皮を鼓して如何か人の爲にせんと、我れ拂子を取りて竪起す、祖云く此の用に卽するか此の用を離するかと、我れ拂子を將つて禪牀角に掛く、祖威を振つて一喝す、我れ當時直ちに得たり三日耳聾することを』と言ふのである。黄檗是の擧示を聞いて覺へず悚然として舌を吐いた（舌を吐く事は當時に於ける大なる敬服狀態なり）百丈之を見て『お前は已後法を馬大師に承嗣する心か』と問ふと、黄檗は首を振つて『イヤ然うではありません、只今和尙の擧示に因つて馬大師の大機大用を瞭然として見ることが出來ましたが、併し若し馬大師に承嗣せば、他日已後我が宗門の兒孫を喪することになりませう』と云ふと、百丈は『然り然り、見、師と齊しきときは師の半德を減ず、智、師に過ぎて方に法を傳ふることが出來る、お前が今の見處は確かに超師の作がある』と稱せられた。斯く天然に禪を會し、天然に超師の識を有する黄檗は、愈々如實に超師の大活機を顯はす時機が到來した。而して師の百丈禪師は之れを見て踊躍して喜ばれた。

或る日のことである、黄檗が一日の仕事を濟して歸て來た、すると百丈が見て『何をして來たか』と尋ねた。すると黄檗は素直に『ハイ山下で菌子を採つて參りました』と答へた。百丈重ねて『然うか其の時お前は大虎を見なかつたか』と問ふ。其の間髪を容れず、黄檗の態度は俄然變つて、師の百丈を睥睨して振天動地の一大虎聲を發した。恁うなつては放却して置く譯には行かない。弟子たりとも勢ひ眞劍の相手をせねばならん事になる。口は禍の門で百丈は飛んでもない事を言ひ出したものだ。そこで早速腰に下げて居つた斧を取つて眞向に振り上げ黄檗目掛けて斫り付ける勢を示した。猛虎と爲つた黄檗はそんな斧位に恐れるものではない、驀然進んで師なる百丈の胸元を攫んで、いきなり横面を張り飛ばしたどうも實に亂暴な遣り方だ。縦令如何なる場合、如何なる事變に遭遇したからとて、師匠を撲るとは言語に絶した暴行と言はねばならぬ。倫理、道徳、サテは今日流行の表面的禮儀から言ふても、決して認容する事は出來ないであらう。既に佛教の悟道に入つた黄檗が斯樣な事をしてそれで果して善いであらう乎。然るに張り飛ばされた百丈は赫ッと怒ると思ひきや、如何にも嬉しさうに闇闇と笑つて方丈に歸られ、其の晩直ちに大衆を集めて上堂して云はるゝには『此の大雄山下に一匹の大虎が棲んで居るから、大衆皆々注意して其の大虎の出入する樣子を好ツく看て置けよ、俺は今日親しく其の大虎の一口に遭ふた』と怡悦餘つてさも滿足げに嬉々として並居る大衆に報告した。之れは何んと云ふ境界であらうか。『落落聲光皆振レ地の處、大丈夫、見也無之處、收二虎尾一兮捋二虎鬚一之處、一一上記吾輩語話』の何の邊に當るか。イヤ諸君御自身の何の邊に當るか。切實に胸に手を當てゝ承當して貰ひたいのである。

相國裴休は黄檗禪師に歸依して『自二從大士傳一心印一。額有二圓珠一七尺身。掛レ錫十年棲二蜀水一。浮レ盃今日渡二漳濱一。八千龍象隨二高步一。萬里香花結二勝因一。擬三欲事レ師爲二弟子一。不レ知將レ法付二何人一』との頌を呈した。乃ち丙寅の年に因んで聊か虎に關する宗門の御話しを致した次第である。讀者諸君、何んと思はるゝ乎。希くは共に黄檗禪師の如き氣宇を獲得して天下に濶步したいものである。但し空腹高慢の獨尊に陷らざるやう。

赤化と資本主義

◎マルクスの唯物史觀に從へば『資本主義は個人主義の歷史的發展の過程でやがて社會主義に移るべき道程』であると云ふ事になる◎然るに資本主義の爛熟したイギリスには反資本主義と社會主義の思想が汎濫して居るけれども極端な共產主義はこれを受入れず社會主義の思想的背景を有する勞働黨も共產主義者を黨外に排斥した◎それに引代へ眞の資本主義國でなかつたロシアには十月革命が起つてマルキシストの共產主義國となつたが是れは一體何ういふわけだらう◎實際のことは純理一方では律せられぬもので資本主義の幼稚なロシアに社會主義的大革命が行はれたのは特權階級に對する庶民階級の積年の鬱憤が戰爭の機會に爆發したからである◎虛無黨時代からロシアには革命の氣が鬱積して居たのに帝政時代のロシアの特權階級はこの鬱氣を放散しないで却つて抑壓したので遂に大いに爆發して了つたのである◎一ツは國民性の如何にもよる事でイギリス民族の開放的、平民的、堅實的なるは資本主義を發生せしめた產業革命の本場所でありながら反資本主義の潮流を激化せしめぬのだ◎然るにロシア民族は大雜把で極端から極端に走る性癖があるので幼稚な資本主義國でありながら社會主義的大革命を遂げたのだ◎是等の事情より考へてみると『支那はまだ資本主義國でないから赤化せぬ』といふ純理一式で支那の赤化を否定する事は出來ないと思ふ◎ロシアも支那も大農業國で民衆の大多數は無敎育で發作的であるが此の民衆の無自覺といふ奴が却つて危ないのであつて不平政客や反動的思想團や智識階級の過激的煽動手段に煽せられ易いのだ◎ロシア民族がその無自覺のために社會主義者の革命に捲き込まれたのと同じく支那民族の無智識と發作性こそ支那赤化の危險點であると思ふ◎イギリス民族のやうに概して自覺力があれば革命を目的とする共產主義などに惑はされないが支那民族のやうな無自覺では甚だ危ない所がある◎況んや武力至上主義の國であつて軍閥とその一派のものが凡ゆる權力を壟斷して民を誅求し克服するに於てをやで其處に革命的烝々の氣が次第に鬱積して來るのである◎又そこに東方に對する勞農ロシアの赤化の手が伸びて來るわけでその赤化の手を伸ばさせる樣な缺陷と素地とも支那には存在してゐる◎民族自決、反帝國主義、反資本主義の思潮と共に國權恢復や利權回收に熱中する支那の今日は資本主義國でなくても惟に赤化の虞れがある。



產業福利施設の概要（上）

兵庫縣工場課長　石野爲之介

(一)意義

福利事業とは、法律の强制に依らず、競爭の必要に迫らるゝ事なくして、被傭者の幸福狀態を改善せんとする雇傭主の自發的努力の下に行はるゝ事業である。斯くすれば職工募集が容易になるとか、營業上の或る政策から割り出して行ふとか、そんな不純分子が縱令尠しでも加はつた施設では決して產業福利事業と言へない。近來はヨオロツパやアメリカに勞働者自身若くは勞働組合の力で福利事業が出來るやうになつたが爰には主として雇傭主の自發的福利施設について述べる事にする。

(二)起源

產業福利施設の起源を尋ねれば、十九世紀の始めスコツトランドのニユーラナーク紡績工場に於ける被雇者の幸福狀態を改善せんが爲め、ロバート・オーエンの爲せる巧妙にして好成績を擧げたる施設に創まると言はれて居る。今此の近代產業樣式に對するオーエンの理想を氏の傳記中より左に引用して見る。產業福利施設の眼目がその中に明記されて居ると思ふからだ。

『予の運命開拓に際しては種々なる困難に遭遇して常に奮鬪した。當時工業界に於ては、一般に婦人及び兒童は精神並びに道德を墮落せしむる狀態の下に雇傭せられ、飲酒無智、淫猥、背德は殆ど職工の特質であつたけれども、余は品性陶冶上、境遇の及ぼす感化力の偉大なることを信じ此の趣旨に基きて改善を行はんと決心した。玆に於て勞働者が興味と利益とを求め得べき集會所を設けて飲酒を抑制し、實際的に種々の弊害を說示する講演に依つて背德を豫防し、幼年兒童の雇傭を廢止し、住宅の物質的改善を試み品質良好なる食品を相當價格にて供給し、兒童の學校を設

け、更らに進んで養老及び疾病保險基金の設定に至るまで略々殆んど漏らす所なく施設した』云々。

（三）目標

勞働者の狀態を改善せんとする雇主側の此種施設は、國家の法規上の干涉に依るものでなく、彼等自身の自發的努力に出らるものであつて、必ずしもオーエン一人の力にのみ其の起源を負はしむべきものではないが併しながら彼がその端を啓いたのは兎も角も賞讃に値ひすると思ふ。鐘紡の福利施設は我國では最も古い歷史をもつて居るもので、其の施設に對し創造的に努力した人は、嘗て鐘紡の高砂工場長として昨年物故せられた永見一君であつたといふことを聞いて居る。故に產業福利施設は個人の人格力に待つところが多いのである。

工場組織發達の初期時代における特徵たりし狹義の功利主義は、產業そのものを却つて惡化せしめたが、深く生理學及び心理學の敎養を受けたる事業家は、之れに對抗すべき策を考えた。殺伐殘酷なる人々の監督を離れて、宏量大度にして責任を自覺し、學理とその應用の敎養を受けたる人々の手に工場が委ねらるゝに至らんことは、また時代人心の要求であつた。幾分にても社會學を修めて『成金者流』以外に有用の人物たらんことを期し、且已れの勢力範圍內の人々の健康及び能率の增進を助け、麗はしき社會事象を樂み、仕事と共に友情を味はんとする人々は、產業福利施設の必要を次第に力强く感じて來たのである。

此の運動の起源は極めて實際的のもので、毫も職業的改革者の援けを借らず、慈善家若くは犯罪學者とも關係なくその他種々の學說や感情にも囚はれず、主として實際的事務家の手腕に依つたものである。福利事業は、最低度の施設と雖も生產能率の法則に從つて特別の方法を講じ、之れに依つて雇主の利益をも考え、また作業場の環境が賃銀勞働者を引付けるやうに調整せらんとする活動であつて、此の意味に府て、それは健康增進の法則に合し、注意興味及び疲勞の規則に從ひ、又は忠實熱心等の微妙なる精神作用をも喚起し得べきものなのである。

現時英米に於ける產業福利施設の一大目標とするところは、從來の大規模事業が作業、階級、利益並ひに生活標準等に於て各人を疎隔分離せしむるに至れる傾向を轉回して合理的の組織及び不斷の努力に依つて之が結合一致を圖らんとする所に存する。この點は我國の企業家に於ても同樣の歸結に向ふべきものであつて、徹底的に目標をこゝに置き、之れに人間味を加へ、さうして相互人格尊重の基礎に

樹立した產業福利施設が行はるゝ場合には、我國に於ける勞働問題の半面は確に解決するものと信ずる。

(四)發達 國家の富が國民各個の生產に依つて增加するが如く、國民の生活狀態もまた是れと同樣の方法に依つて改善せらるゝものであるが、幸ひに利用せらるべき多くの善良なる事物が社會に存するを以て、ヨリ好き家庭及び學校、ヨリ良き食物及び衣服、ヨリ良き讀物及び娛樂を得ることが出來る。生活方法の向上につきては、勞働者階級も他の階級と同樣に慰安の方面より出發すべきが理論上當然であつて、又此の階級は勞働時間の大部分を作業場內に費すが故に、前述の進步は單に家族的生活の方面にのみ止まらず、進んで就業中の狀態の積極的改善にも顯はれねばならぬは云ふまでもない事である。

最初のこの運動は槪して系統なき特發的のものであつたその結果、一工場に於ては實驗中に屬するところの事項が他の工場に於ては旣に新らしき特色となつて居るが如き事もあつたが、その後この運動が相次いで各地に普及するに至つて遂にその形式の一致を見たのである。尤もその初期にあつては、是等の慰安方法の改善は性質上不經濟であり又少なくとも競爭を超越して居る觀があつた爲め、施設者はその親しい最負筋から善良な事業として非常に擁護せられたけれども、世人からは一種の『慈善的』として猜疑の念を以て迎へられ、生產と消費との間の平衡を圖らんとする進步せる先驅者としては考へられなかつた。

然るに其後屢々實驗を重ね、次第に經驗を積むる從つて一定の方針確立し、且新らしき慰安施設が一般に普及せらるゝや、次第に因循姑息の雇主を驅つて之をその渦中に投ずるの止むなきに至らしめた。卽ち此の施設は習慣的又は標準的のものとして期待され、之を以て國家の富力及び民力程度を知るに足るべき適當の表徵とも見做され、斯くて漸く重んぜらるゝ樣になつたのである。

(五)運動 福利事業は主としてフランス、ベルギーオランダ、スイツル及び北米合衆國に於て著しき發達を見た。イギリスはポート、サンライトのリバー・ブラザフス・ホーンヴイルのカドブリー・ブラザーの如き、前者は世界の石鹼王、後者は世界の菓子王として產業界に奮闘して居るが、孰れもその產業福利施設は實に徹底的に優秀なる實績を示して居る。外に慰安施設の一として田園都市運動が行はれて居るけれども、之れは特別の施設と見做され、產業界に於ける福利事業運動としては未だ顯著なものと言は

れないから、こゝには述べない。其後更らに英國雇主階級の極端なる保守主義の爲め、賃銀勞働者の改善は主として勞働組合の經營に係るといふ結果を來たし、玆に勞働者自身の福利施設をも亦餘儀なくせられた。

ドイツに於ける福利事業は、世話好きな國家社會主義の力に依り、法律の强制及び官憲の斡旋に基いて行はれて居る。クルップ會社の如き特例はあるけれども、概して右の如く行はれて居るのである。アメリカに於ては個人企業が自由に行はれ、豐富なる財源を有し、民主々義に都合好き學說が尊ばれ、且その民性が奮鬪的習慣に富み、實業家の間には大膽なる理想主義者があり、加ふるに訓練されたる輿論を有するが爲め、福利事業は此處に始めて安住の地を得て、歐洲式の產業戰及び國家の干涉主義を排して、自發的に產業階級間の社會的及び經濟的調和を保たんとするアメリカ式福利施設の發達を見るに至つた。

(六)內容　福利事業の內容としては、採光、通風好き家屋、婦人休養室、身體檢査、應急手當、移動病床、巡廻看護婦等の外、運動、休暇、休養等についても工風せねばならぬ。工業教育、工業圖書巡覽、申告賞與、勤續又は精勤賞與、疾病災害の保障、養老年金、住宅改善施設等の必要なることも勿論である。啻にそれのみならず音樂會、演藝舍、俱樂部、人事世話係、不德者の豫防法、排除工場內外の美化施設等も亦固より必要である。

福利事業は其の性質上、土地の情況、經費の多少、雇傭者の才能及び興味に應じ、廣く各般の方面に涉りて任意の施設をなさねばならぬ。從つて其の種類雜駁を極むるが故に、延いて一貫せる基礎原理の承認を遲らし、工場相互間に於ける經濟的智識の交換照合を困難ならしめ、此の運動の實驗時代を徒らに長引かしめたが、今や漸く其の過渡時代を經過しやうとして居るのである。

斯くして產業福利施設は現代產業界に缺くべからざる必須的のものとなつたのであるが、その形式の整備と相待ちその內容については猶ほ多くの改善を要する點があらうと思はれる。最も必要なるはその形式及び內容の整備充實と共に此の機關に依り勞資兩者の人間味を一層能く發揮せしむる機會を作ることである。產業福利施設が勞資協調の上に絕對的の力を持つて居やうとは考えられぬけれども、此の機關によつて勞資兩者の人間味が十分に發揮せらるゝに於ては、それが勞資協調の上に尠からざる貢献をなさんことは、言ふ迄もない事であると思ふ。

獨逸ハンブルグ市の職業指導所

其の事業は組織的に徹底して居る

獨逸の各公立職業紹介所が相關聯して創立した職業指導所は、設立後既に五箇年を閲したのであるが、開所以來の同所の最緊要事業は小學校の職員と指導上協同した事である。小學校職員の大多數は職業生活及び經濟生活等の複雜なる問題に關して殆ど智識がない。乃ちこゝに深く鑑みるところありて、指導所は學校職員の爲めに講習を行ふこととし、各種工業團體の代表者が諸種の職業に就いて其の要求する人物及び自己の感想等に關する講話を爲し、之れに加ふるに學校職員をして代表的工場等を見學せしめ、成るべく職業的智識を涵養せしめて居る。

一九二三年より二四年に至る各冬期に際して、學校職員は地方工場勞働組合主催の講習會へ出席し、そして其の得たるところの智識を學校に於ける職業指導に應用した。ハンブルグ市では各學校の職員が生徒を引率して工場見學を爲し、歸校後その得たる印象を文章に綴らしめ、之に依つて其の仕事に對する生徒等の適性及び能力を判斷し、更らに猶ほ十分に考慮した上、職業指導を行ふべき基礎材料としたのである。職業指導所と學校職員との聯絡は時々發行する複寫の時報に依つて結ばれてゐる。

斯くして教導せられた兒童は、小學校の門を出る時には己れの一身に關する職員の選擇や、學校外に於ける活動や研究方面に關する事や、身體上の缺陷等の如き事に就いて相當智識を得るに至る。此等の指示の基礎たるべき事柄に就いて指導所は每年九月「兒童の職業選擇」なる題にて新聞紙に記事を揭載することゝし、此の記事の複寫をば卒業のとき兒童等に配布し、更らに各父兄には其の子弟に對して爲すべき指示書を交附するのである。

又九月中の二週間を以て每夕父兄と學校職員の會合を催し、その席上に於て適職の道德的價値や、工場勞働の事や少年の工場勞働に於ける危險や、婦人工場勞働者の注意や婦人の適職や、その他一般的に必要なる講演を行ひ、更に雇主、小學校及び職業學校等の職員も各自に受持ちの講話

を試むるのである。又多數の父兄は、その子弟の生活及び職業のため、父兄職員聯合會開催中、職業指導所へ來つて種々な相談を爲すことゝし、若し來ない父兄がある時は指導所々員が其の家庭を訪問するのである。

此の訪問は又一面に於て極めて必要な事であつて、之れに依つて指導所は、傳染病に罹つた兒童の理髪店、料理店等の如き接客業に勤務して居ることを發見する機會があるので、此の方面に就いては永く眼病、肺病等の傳染病治療に經驗のある醫師が兒童の診斷を擔任して居る。また指導所に殺到する少年の中より各職業に對する適職者を選擇する際、種々なテストを行ひ、これ等のテストの結果に依つて父兄が子弟の職業選擇の相談に來れば懇切に指導を與へる。但し此等のテストは今尚ほ試驗中に屬するが故に、成るべく多くの批評を世間より求めて居るけれども、テストの價値と必要に就ては疑ふべき實地がない。

兒童が一定の職業を選擇して就職すれば、更に進んで之を監視することは、ハンブルグの如き都市に於ては決して難事でない。また小學校より進んで上級の學校に入學した場合には、その學校でも指導所を助けて、生徒にその希望職業に關する作文を綴らせ、此等の作文を基として、指導所はその職業に關する詳細の點まで調査し、之を生徒の適性と對照せしめ、以て有效なる指導を爲すのである。尚ほ職業指導所の申出でに依り地方商業會議所は速記者の試驗係を設くることに決した。此の係は速記の職を選んだ人の能力を試驗して速記者の證書を發行するのである。斯くすれば彼等に對する奬勵ともなり同時に需要者も優良なる速記者を容易に得られるからである。猶ほ終りに一言すべきは、此の社會事業に對し、凡らゆる職業團體の人、凡らゆる階級の人が、職業指導所の申出に依り悅んで指導所の爲めに無償で盡力をして居る事である。

◉不正精神療法取締 近來精神療法といつた美名にかくれて欺詐的行爲に出づるものが多くなつたそれも醫藥になれ切つたものが精神を轉換せしむる意味において或は一種の信仰生活のごとき純然たる精神療法なら結構だがその多くはそれに名をかり治りもしない中風が全快したとか多年苦しんだ肺結核がたゞ一回の手術で治癒したとか大袈裟な廣告をして一回二圓から三圓高きは五圓の治療代を卷上げる治療方法の多くは心靈術とか氣合術と稱するもので之れも昔は飛行の一つもして來たものに限つてゐたが今では不頁老年どもが僅に催眠術位を會得して直ちに精神療法などゝ大口をたゝき廻るのだから危險千萬だ第一之は醫業に反する行爲なので大阪府衞生課では醫業に紛らはしきものは醫師法に依り夫々嚴重に取締ることになつたとは左もある事である。

食物と生物の性

◎ライオン、虎、豹、狼などいふ猛獸は仲間の弱い獸を屠つて生きて居り鷲や鷹の如き猛鳥もヤハリ仲間の弱い鳥を喰つて生きてゐる◎魚族でも鮫とか鰐とかは仲間の弱いものを自己生活の資料にし蛇は他族の鳥を呑み太蛇になると獸のうちで比較的弱い兎などを丸呑みにする◎斯様に弱肉强食の如實的生活をして居る獸や魚や虫はその性いづれも慓悍で場合によると人間にまでも喰つて掛るが同類の弱いもの苛めをしない象は大きな身體をしながら菜食で立派に生きて行く◎人類は凡ゆる生物を喰つて生きて居るがその人類間にも獸食を主とするもの魚食を主とするもの菜食を主とするものと多少の區別が附けられる◎概觀して白晳人種は獸食人類、東洋人種にも支那人のやうに豚を常食とする人種もあるが或は魚食人種、或は菜食人種といふべく吾々日本人は元來魚食人種だつた◎勿論斯う極めてしまふことは出來ないが幾分そんな所があり而してこの食物の關係から人種と民族の性質に相違が生ずる樣に思はれる◎仲間同士の弱いものを屠つて生きてゐる猛獸や猛鳥や魚類や虫類の性が慓悍であるが如く人間に近い四足動物を喰つて生きてゐる人類の性は何となく獰猛な所がある◎獸食人種たるアングロサクソン人種やその他の白晳人種を見給ゑ悉く弱國弱民苛めをしたではない乎◎革命後のロシアやドイツは帝政時代のやうな侵略的征服はしないがロシアの如きは四方八方に社會主義的宣傳をして高壓的に押付けがましい事をして居るではない乎◎豚を常食とする東洋人種たる支那人と支那國とは弱國弱民となつたが以前は各方面に利慾の手を伸べたもので今日でも此の民族は頗る利己的であつて我儘な事ばかりする◎吾々日本人は元來魚食人種であつたのだが維新以來西洋の物眞似をして獸食をする樣になつたので弱肉强食慾が出て來て之がため遂に他の誤解を受けたのである◎菜食をする者は概して平和的、魚食をする者は中和的、獸食をする者は侵略的征服慾に富んでゐる◎象のやうな大きな身體をした動物でも菜食をするものは性柔順にして平和的であるのを看ても凡その見當が付こうと云ふものだ◎弱肉强食の帝國主義や資本主義を生んだのは獸食人種ではないかイムペリアリズムの威力は衰えたがアメリカの獸食人種は世界一の資本主義國となつて征服慾を增長させてゐる◎生物學を研究して生物の生活狀態を考えて見よ眞理は爭はれぬものだと云ふことが分るだらう。

無産政党

◆客臘十二月一日に結黨式を擧げた日本初めての無産政黨『農民勞働黨』は直ちに結黨を禁止された◆發表された規約及び綱領の草案には頗る急進的なところがあり總會に附議し決定された綱領は草案に較べるとやゝ緩和されたがソレでも餘程強く出でゐた所がある◆無産政黨であるから有産政黨と異なるのは當然で強く出るのに不思議はないが裏面に共産主義的思想が潛んで居るといふ所から結黨と共に解黨を餘儀なくされたのだと云ふ◆當局のこの見解が當つて居るか何うかは暫らく之を措き草案にあつた『土地國有』を引込ませたのは大分遠慮したものと見える◆土地の公有又は國有と云ふことはヘンリー・ジョーヂ以來の問題で支那の理想的政治家故孫文はその三民主義の民生的社會革命の中に『土地國有』の一項を堂々と揭げてゐる◆我が日本でも上古王朝時代の大化革新の際には權門勢家の私有地を官沒して悉くこれを國有とし唐の班田制に則つて謂ゆる班田收受の法を行つたものである◆無産政黨『農民勞働黨』が社會主義的のものであるなら社會主義の終局目的たる『凡ゆる生産機關の公有』を標榜しなければならぬのに草案に出した『土地國有』まで引込ませたのは狡いのかも知れぬ◆支那の國民黨はその左傾分子によつて生産の國家管理と勞働者にその一部の管理權を與えると云ふことを宣言して社會主義的立場を明かにした◆中國共産黨なるものもあつて之れは一層過激なことを主張し議會がない爲め勞働者の背後に隱れて勞働運動を激成する◆之から思ふと日本に胎生して直ぐ流産してしまつた無産政黨は急進とは云へ過激とは云へないが裏面に妙な魂膽がある樣では却つて困る◆第一この無産政黨の育ひ立ちが悪い生まれぬ先から内輪揉めを起し遂に勞働總同盟と勞働評議員會の脱退となつたなどは何處から視ても褒められた事でない◆政治研究會がその主力でなつたが政治研究會には理論的急進家が多くそれが實際的に着實穩健を旨としてゐる勞働總同盟と氷炭相容れぬため内輪割れをしたのだ◆普選が實施さるれば無産政黨が生まれるのは當然で普選は無産政黨の母體であるから怪體な『農民勞働黨』が流産した以上それに代つて勞働總同盟などを主力とした別の無産政黨が改めて呱々の聲を揚げる事だらう◆日本の政黨政派は先進國のイギリスをお手本にしたいもので此點から云つても日本の議會政治史に特筆大書さるべき無産政黨は穩健着實を以てその骨髓としたい◆イギリスの

勞働黨は一八六七年と一八八五年の選舉權擴張時代に芽生え勞働組合の基礎の上に一八九年に至つて獨立勞働黨として現はれ一九〇〇年に今の勞働黨となつたのだ◆この間約三十年もかゝり現在のマクドナルド時代に入つて議會における優勢な政黨となり自由黨を追ひ越して第二黨となり次いで政權まで握ることに成つたのである◆イギリスにもチヤーテスト時代のやうな暴力革命手段の行はれた時もあるが勞働黨の出現以來は着實にぢり／＼と進んで來たのである◆急進突飛な事をしては却つて打毀しとなるから日本に無產政黨が芽生え普選の實施と共にその代表者を議會に送ることになつたら着實に辛抱强く地盤を築くべしだ◆大阪朝日新聞は『イギリスの保守黨や自由黨でもまた日本の憲政會、政友本黨、政友會でもその既成政黨はいづれも社會的基礎を有つて居ない◆是等の有產政黨は本據を議會に有し爲政者階級の政治的原則から割り出して議會內から議會外の民衆へ働らき掛けるのであるが無產勞働黨の組織はそれと全く根本的に異なつて居る◆則ち無產勞働黨は全勞働者と全勞働組合を基礎とせる政黨で根柢は議會外に在り議會外の民衆から議會內へ働らき掛ける◆イギリスの勞働黨は全國的の大組織の上に立ち議會外の民衆的利益を增進すべき政策を實現せんが爲めに議會內に行動するのである』と論じたが先づ以てそんなものであらう◆處で此が日本にも無產政黨か出來たら議會內では當分のうち繼兒扱ひにされて有產的既成政黨の惰勢的勢力に壓倒され勝ちであらう◆之を忍んで辛抱强く短氣を起さずにイギリスの勞働黨のやうに漸進的步調を取らなければ大を成し難い◆時代の進步と世界の大勢はさうして居るうちに段々と次第に無產政黨のために有利な場面を展開し來り一般民衆の政治的自覺も高まると思ふ◆權勢爭奪を唯一目的として議會內にのみ根據を有する有產政黨が無產政黨の出現によつて何う變化して行くかも興味ある問題だ◆有產的既成政黨はいづれも申し合はせたやうに共の政綱に『社會政策』を揭げて議會外の民衆に結び付こうとして居るが旨く行くか知らん◆現在のイギリスは保守黨の天下であるがその保守黨の政策が保守とは言へ頗る進步して居るので灰色の自由黨よりも受けがいゝ◆日本の既成政黨も遠山の霞のやうに灰色でぼかして行くと白の保守と赤の進步との中間に板挾みとなつて自然と運命を縮める事であらう◆何はしかれ日本にも普選と共に無產政黨が生まれる様になつたのは議會政治の一大進步と云へる。



不良青少年に關する意見

其の發生の原因と事前防止策及び事後救濟策

白木秀刀

一は生命の芽生えであつて來るべき時代の曉を表現する者といはれる少年少女、一はやがて時代の先驅となり明煌煌の炬火を翳して國家及び社會のために猛進する青年男女さうした人たちが惡くなつて行くことは慥かに大問題である。それ等の人たちの惡化は次の時代に於ける國民の素質を惡くすることになるから重大な事柄である。

科學文明の進歩は著しく都會の進展を促し、商工業を發達させ、人口を都市に集中したが、その反面に、都市を罪惡化し、家庭の空氣を濁らし、さうして種々の都市病や社會病と共に多くの不良青少年少女を生ぜしめた。不良兒が農村に少くして都會に多いといふことは都會の環境そのもの丶中に不良兒の出來るやうな原因が潜在して居るのであると私は思ふ。彼等が何かよろしくない事を仕出かした時社會はその親を責め、學生であればその學校や先生の責任を問ひ、または彼等を蛇蝎か惡魔かのやうに言ふけれども不良兒が主として社會の產物である以上、一部分の責任は社會の擔ふべきものではなからう乎。社會の責任であるとすれば社會を構成する各個人は責任觀のもとに此の社會上の重大問題を考慮しなくてはならぬ筈だ。即ちお互ひに連帶責任感を持たねばならない筈である。

滿洲に於ける不良兒は今のところ比較的少なく、當局の黑表にも數へるだけしか無い位であるが、近來大連市內だ

けでも雨後の筍のやうに殖えたカフエーや喫茶店などがそれ相當に繁昌してゐる所を看ると、少いからと言つて放つて置くわけには行くまい。滿洲における不良兒は內地のそれと幾分異なり、物質が自由になり過ぎる所から、その性質が放縱に流れ、喫茶店やバアなどに自然と培はれてゐる傾きがある。或人の話に『大連市內に於て不良兒の出る事情は、東京や大阪のそれと事情異なり、むしろ中産階級以上の家庭の子弟に不良兒が多い、これは全く滿洲の家庭生活が好くない爲めで、その上に惡い社會的感化が鋭く及ぶのである』と言つたが、滿洲における不良兒問題は餘程この邊に注意する必要があるだらうと思ふ。

家庭もさる事ながら、私はこの問題が學校の宿舍制度にも關係があると思つて、この問題の參考にもといふ意味で一通りそれを調べてみた。その結果は

南滿洲工業專門學校では(大正十四年十一月末調)專門學校生徒二百二十名のうち、學校寄宿に居るもの八十七名自宅から通學するもの四十一名、親近者宅から通學するもの十五名、散宿者七十七名であり、工業學校生徒は四十四名の中、學校寄宿者に居るもの二十六名、自宅から通學するもの十一名、親近者の宅から通學するもの二名散宿者五名である(因みに記しておくが專門でない工業學校の方は本年三月末までにて閉校する)

次に大連商業學校は大正十二年十一月以來校舍の狹隘を感じた爲め、寄宿舍を廢止して、同校を經營する東洋協會の所有せる市內伏見臺の住宅向貸家を寄宿舍に充て、分宿制にしてゐるが、その數を見ると、同校全生徒數は一二科とも九百十名(女生徒を除く)にして、沿線各地よりの在校生は六十餘名、その中同校の分宿に在るもの四十七名、散宿するもの十三名で、その分宿に在る四十七名の中にも、數名は親近者の宅から通學してゐる模樣である。同校では新學期生徒募集のとき其の新入生に對し特に寄宿舍制の無いことを注意するとの事であるが、滿洲における商業學校は大連にのみ在るのだから、沿線各地より出て來たものには何うしても寄宿舍制の必要を感ずるわけだ。然るにこの春には長春に商業學校が設立されるので、沿線各地より大連商業學校に入學を志望する者は減少するだらうとの見込から、寄宿舍制の計畫は全然企てられて居ないといふ事である。

大連第一中學校の全生徒數は現在六百五十六名であるが同校の生徒は殆ど市內居住者のみで、寄宿せなければな

らない生徒は宿舍のある旅順中學に入學することになつて居る。尤も家庭の不得止事情のため父兄が轉地する場合などには、その學齡兒童のみを同校内に在學せしむる事もあるが、之等の生徒は第一中學では目下數名に過ぎない。併し差當り斯うした事情の下にある學生のみの寄宿舍又は學生寮など確かに必要であらう。

大連第二中學校の全生徒數は現在四百三十名で、このうち、百四十五名は市内の親近者の家に寄寓し、その親近者の宅より通學し、八名は濵家屯光明臺の振東學社より通學し、其他は自宅より通學して居る。

大連市内における中等學校以上の生徒で自由な散宿生活を送つてゐるものが幾人あるかは右の數字によつて大體の見當は付くわけである。親近者宅より通學する生徒たちも散宿者と見做して差支えあるまい。學生の散宿者が多いのは、その學生にとりて危險であるから、學生寮といつた樣な學生のみの寄宿舍が必要であらうと思はれる。第二中學校長丸山英一氏も同じ意見を持たれてゐる。自由な散宿生活にはどうしても誘惑の手が伸び易い。學齡者は直ちに寄宿舍に入れて訓練する必要があるとさへ或る學者によつて叫ばされるやうになつた時であるから、大連にも二三の學生寮が實現し、然うして學生の爲にも、父兄の爲にも、共に安心の出來るやうな工風を望みたいのである。

それは兎に角、我が滿洲社會事業研究會では夙にこの不良青少年問題について憂ふる所あり、昨年七月大連市内の各婦人會へ向け相談を申入れて其の意見を求めた程であるが、更に各方面の意見を聞く必要があると思つて、左の三點につき各位の高見を承ることにした。

一、不良青少年少女發生の主原因
二、不良青少年少女に對する事前防止策
三、不良青少年少女の救濟、感化、保護策

留守中の方々には、時間の都合上面談の出來なかつたことを遺憾に思ふのであるが、こゝには聽き得られた分だけの意見を列記してみることにした。(順次不同)

大連警察署長　水野柳治

(一)　先天的に性質の不良なる者もあるが、性質善良なる者が不良化するのは、第一に先づ家庭の缺陷から來るのであつて、中流以上の家庭に不良兒が出るのは親々の溺愛が原因であると思ふ。それから不健全なる娛樂機關殊に營利的活動寫眞は青少年に非常な悪い感化を與ふる

ものであることを忘れてはならない。

(二) 事前防止策は非常な困難事であるが、親たちは先づその子供の個性を知り、學校と家庭との連絡をよくし周圍の環境にも注意して欲しいのである。學生のための寄宿舎を設くるも可いが、衛生に注意しないと、結核など多くなつて問題になるであらうから、宿舎と共に保健上適宜の施設にも考えねばなるまい。

(三) 救濟、感化、保護の策は子供の個性を知る事に依りて自然に解決することゝ思はれる。

滿鐵囑託　高柳保太郎

(一) 原因としては教育の如何殊にその家庭の養育と情態に拘はることが多いと思はれる。

(二) 從つて健全なる家庭にはその發生なかるべしと考へられる。事前防止の手段としては青年少女を理由なく家庭より離さゞるを宜しと思ふ。離すにおいては之を監督と溫情にて包むが如くすべきである。

(三) 出來た不良青少女は家庭より離し感化機關にて保護救濟するが最良策であらう。

× × × × ×

大連市會議員　村田懿麿

(一) 不良兒が發生するのは親たちが子供に對して不同情不親切であるからであるが一つはその家庭の情態如何にも依ることであらうと思はれる。

(二) 防止策としては親たちで監督を怠らないことが肝要で、その監督も最も砕けた溫い愛に充ちた、そして融通のきく監督をせねばなるまい。

(三) 不良兒の感化救濟はヤハリ感化機關によつて保護救濟することが最良策であらうが、その感化機關を通じて『土に親しむ』やうな仕事を以て氣永く感化することがいいと思ふ。自然に接することは愛に飢えた彼等の心を自ら純朴にするからである。

大連市長　杉野耕三郎

(一) 不良兒發生の原因は、主に家庭と社會の環境に依るもので、都會に不良兒の多いのは要するに都市の環境が宜しくないからであると思ふ。

(二) 殊に家庭にある主婦の責任に俟つ所が多いのであるが、家庭内でも、子供に對しては嚴格主義と溺愛主義

との中間を取つて、之を程好く突混ぜ、そして教育的に愛育して行かねばなるまいと思ふ。

(三) 不良兒の救濟保護は家庭より子供を遠ざけて感化機關の力に依るのが最良策であらう。

高等法院長　土屋信民

(一) 滿洲では中産階級以上の家庭から不良兒が出るので困るといふ話を聞かされるが滿洲における不良兒は必らずしも中産階級以上の家庭の者のみではあるまい。それは少いために却つて珍らしがられてそんな感じがするのではなからうかと思ふ。毎朝學校に子供を出すまへに私たちと一緒に食事をするとき、子供は温順に食事をとるが、これも女中任せにしておくと、各自がてんでに我儘を出してゐるといふ工合であるから、有産者と無産者とに拘らず、どうしても不良兒の出る家庭は親々の愛情が行屆かない結果であらうと思ふ。

(二) 防止策といつたところで各家庭の兩親たちのそれぞれの相當の注意を促すより外に私は今差當りその適切な策があらうとは考えてゐない。

(三) 内地では不良兒を救濟保護するために少年審判所などあるが、何の程度まで效果があるものか、今度研究に出かけて見やうと思つてゐる所である。

滿鐵社會課長　田村羊三

(一) 不良兒發生の主なる原因は、低能兒を除き、健全なる情操の發達を妨ぐるが如き社會狀態、殊にその悪い環境に生活する爲であると思ふ。この意味において、家庭は尤も大切であつて、貧富等の物質的方面よりは家庭の精神的方面の狀態に大なる原因潜めるが如く、貧者又は無識者の家庭でも、平和にして温愛に充ちて居るならば、不良兒の發生は殆んどないが、之に反して富者乃至は社會の儀表たる有識者にして、兩親共に健在で、一見何等悪原因なきが如き家庭より不良兒の發生するもの必ずしも尠なからざるは、其等の家庭において、家庭教育を等閑に附するか、或は又その子供に對して餘りに嚴格に走り、潤ひなき日常生活を營むか、精神的方面に何等かの缺陥あるを發見するものである。

(二) 一般社會の改善も固より必要な事であるが、殊に家庭をして慈愛と温情に溢れしむるところの人間生活の至高至善の單位たらしむる事である。

(三) 不良性は傳播し易きを以て、社會と家庭との教育の根本策と併行して訓導機關を設け、不良兒を之れに收容し、周到なる監督のもとに、一般社會と交通せしむる樣にすること。此の場合に於ても、嚴格と理性一點張りの冷然たる取扱ひは之を避け、寧ろ健全なる情操の涵養に努むることが肝要であると思考する。

滿鐵衞生課長　金井章次

(一) 獨逸における新學說として、家族學なるものは生物學的遺傳の法則と家族に遺傳する氣風なるものを基礎とし、以て家族を研究する學問であると言はれて居るが共の中の體質の遺傳は否定されない。ダーミンの家族改良も有數なる化學者を要すると言つてゐる。體質と遺傳と家庭の風習の如何によつて不良兒の發生すると否との原因が分ることとであると思はれる。

(二) 防止策としては、家庭、社會の兩方面から訓育的に防止することゝ、結婚その他の手段によつて血統の絕滅する方法を取ること、又は結婚の際徒らに性慾的に走らす相手を愼重に撰擇することと等である。

(三) 不良兒に對しては社會から隔離的方法をとつて感化救濟するより外ないであらう。

南滿工業專門學校長　小山朝佐

(一) 不良兒發生の主なる原因は、家庭教育の不備から生ずるもので、家庭における溫みが全然缺けてゐるからではなく、それが十分に注がれてゐない爲めであらうと考へられるが、それと同時に現代社會の惡刺戟が餘りに露骨に現出されて居るからだと思ふ。

(二) 不良兒發生を事前に防止することは、父兄がよく注意して、家庭の純正と保つと共に、社會の罪惡より遠ざけしむるにある。尤も之れは理論的には容易に云ひ得るけれども實際的には離かしい事である。

(三) 感化、保護、救濟については、教育の力を以てすることが先づ大切であらう。

大連第二中學校長　丸山英一

(一) 不良兒發生の原因は……。

(イ)都市環境の影響から受けるものが多い、取分けジャーナリズム不良壯年者、營利的不健全なる活動寫眞や軟文學、バア、カフエーなど。

(ロ)家庭の倫理的缺陷の結果、無家庭ともいふべき放浪兒ありて夫れには一種の反抗氣分があり、勤儉恭如の精神なき家庭には我儘者があり、横着者があり、更に無氣力な家庭には溺愛が生じ易い。

(ハ)教育制度の缺陷、それは今日動もすると教育者が冷遇され、十分に存在を認められず、從つて教育界に人物が漸く少くならうとしてゐること。

(ニ)國民的大理想が明瞭に掲げられてゐないこと。

(ホ)健全なる娛樂機關の缺如。

(二)防止策としては、教育機關を增設して、それを眞の情味あるホームたらしむること。寄宿舍の設置又は特殊なる學生寮の建設を計ること。

(三)不良兒の救濟については、少年審判所、感化院などの機關による方が適當と思はれる。アイオワ州地方裁判所の少年審判係長エスリツク氏は、デス、モイネス市の地圖のうへに不良兒の住所を黑點で印をつけたところ不良兒の最も少ない所は運動場、遊園地の附近であつてその運動場、遊園地の距離が遠くなるに從つて、漸次不良兒の黑點は濃厚となつたと云ふことである。

× × × × ×

大連高等女學校長　石川義次

(一)不良兒發生の原因は遺傳と境遇とから來るものだと私は思ふ。無論遺傳は單に罪惡そのもののみを遺傳するものでなく、氣質が遺傳されるのであつて、多少注意すれば解ることである。環境が重なる原因であるが最大原因は家庭である。愛に溺れた不取締りの家庭、愛の枯渇してゐる家庭、斯うした家庭は不良兒を作るに良好な家庭である。殊に子女の若い時代を方外に寛大にした場合、又は子女を責むることの餘りに嚴格に過ぎて溫情を缺く場合、そこに不良兒は作り出される。

(二)不良兒の發生を事前に防止することとは、以上の原因に鑑み、家庭教育のよろしきを得ることゝ、今一つは男女が婚姻をする場合、十分の注意を拂ひ、惡氣質を子孫に傳へないやうにすることである。瑞典のエレンケイ女史の言葉に、子供がこの世の中に生れて來てから教育をするのは遲い、子供の運命といふものは親と親とが一緒になつたときにおいて已に定まつてゐる、とある。近來戀愛至上主義など云つて、盲目的な男女の性慾にかられて、結婚を輕卒する者があるが、此くの如きは兒童

教育上斷じて宜しくないと思ふのである。

(三) 已に不良兒となつたものは、之を感化救濟することと不可能ではないが困難である。故に出來得れば、血族關係のある肉親のものが細やかな温情を以て、涙と同情とを以て、懇切に世話をしてやり、それでいけない場合に感化救濟機關に依ることゝしたい。

大連市立高等女學校長　土田忠二

(一) 不良青少年少女發生の原因と目すべきは

(イ)生理的原因(主として遺傳なれども時としては病氣又は外傷等より來ることあり)

(ロ)家庭的原因(父母の有無、繼父母なりや否や、父母は常に在宅なりや否や、家庭の生活の程度如何、並びに家庭における感化如何等)

(ハ)社會的原因(都會は誘惑多し、活動寫眞その他の興行物が原因となることあり、又都會は智能をして早熟ならしめる。その他物價の騰貴、失職などの社會的關係も見逃すべからざる原因となる)

(ニ)境遇的原因(職業如何、就學せる學校如何など)なれども此等のうち最も關係深きものは遺傳と家庭の教養の二者なるべしと考ふ。

(二) 斯は甚だ困難なる問題なり。生理的關係については、父母深く省察するか、又は醫師の助力を乞ふて、常に深甚の注意を拂ふの外なかるべく、其他の原因より來るものは、その原因を除去して常に善導するを必要とするも、言ふべくして行ふ能はざる場合あるべし。理想的にはあらざるも、安全なる方法としては、感化院に收容して外界との交渉を絶つことなるべし。

(三) 教育又は宗教の力は、假令ひその程度に制限あるとしても、既に不良化したる青少年少女を救濟するところの眞の方便なり。之れを具體化せる感化院又は保護所を設けることも亦良策なかるべし。

大連慈惠病院理事長　柴田博陽

(一) 不良兒發生の主原因は……

(イ)家庭の罪は云ふまでもなし。

(ロ)現代社會には誘惑機關が多い。

(ハ)營利的不健全なる活動寫眞の惡影響。

(ニ)近來のラヂオの如きは餘程注意して聽取せしむべきものであると考えられる。

(二) 防止策としては小過を責めて不良兒と稱し彼等を葬り去る傾向を戒めることも共一つであらう。

(三) 不良兒に對する感化救濟といつても、先天的不良兒は殆ど稀なものであるから、社會は彼等をも少し同情を以て遇せなければならないと思ふ。要するに主として溫情を以て彼等を導くことである。

滿洲日日新聞編輯長　錦織靜太郎

(一) 不良青少年少女の發生は家庭並に現在教育の缺陷に胚胎するものが多いやうである。

(二) 之を事前に防止せんとせば、家庭の空氣をして兒童の成長に伴れて、純眞なる趣味あるものとし、その純眞なる趣味によつて、兒童の心情を正しき方面に向はしむるにある。同時に學校教育をモツト趣味あるものにし學校教育に對する親みを加ふることが肝要である。

(三) 之を救濟し之を感化することも、之を保護することも、家庭と學校教育の他なし。之を國家若くは地方自治體の施設に俟つなどは間違つた事である。

× × × × × ×

大連市役所庶務課長　小泊六翁

(一) 不良兒發生の主原因は、不取締の家庭で、殊に主婦の無責任から來るものと思はれる。それと環境の善惡である。子供は水で、環境は器のやうなものであるから餘程此の邊の注意が必要と思ふ。

(二) 防止策はその發生の原因を尋ぬれば自ら判明することであらうと思はれる。

(三) 既に全く不良兒となつたものは、どうしても、少年審判法か矯正院法の法令の力を借りうけるのが最も意義あり且良策であらうと考へられる。

聖德會事務長　宮武喜三太

(上) 不良兒發生の原因……。

(イ) 社會の暗黑面を暴露し又は不良性を誘發すべき活動寫眞を最大なるものとす。

(ロ) 戀愛を生命とし又は卑猥俗惡なる芝居。

(ハ) 裸體畫、海水浴の流行、その他極めて露骨にして俗惡なる興味を唆る所の觀覽物。

(ニ) 刹那主義、自然主義的俗惡文學の流行。

次に第二の原因としては教育上の缺陷で、

(イ)近來兒童の人格若くは個性の尊重乃至自由開放といふが如き美名に囚はれて盲目的に兒童を自由に放任し遂に放縱の氣風を作るの傾きあり。

(ロ)教育者が『人』を作るに努めずして、唯教科書の注入にのみ急にして、智體の二育に偏して德育を忘るゝの傾向あり、父兄教師とも反省を要す。

(下) 防止並びに感化救濟策としては

(イ)惡を懲らし、過ちを責めんより、深くその動機に照らし、寧ろ善を稱揚すること。

(ロ)之れが具體案として各部落に委員を設けて善行を彰表することが如きも好方便なるべし。

(ハ)善惡を問はず一般青少年少女には每月二回乃至三回必ず義務的に集合すべき機關を設けて良者は益々之を良化し不良者は之を善導すること。

本會幹事長　山田武吉

(一) 原因は家庭にもあるべく、社會にもあるべく、場合によりては、家庭的原因が主たる事あり、或は社會的原因が主たる事もあらうが、要するに双方にあるものと考へられる。卽ち相關的のものである。

(二) 既に原因が家庭と社會との兩方面にあり、そして相關的のものである以上、一方においては家庭の純正を圖り、他の一方においては社會の環境を改善しなくてはならぬ。家庭の純正を圖ることは、家庭を構成する人々取分け兩親の責任であつて、之れは他の干涉を許さぬがために、兎角滿足に行はれがたい恨みがあるが、それ丈け家庭の二本柱たる兩親の自覺的努力が大切なわけである。社會環境の改善に至りては、社會を構成する各個人が社會連帶責任觀念のもとに相協力して爲さねばならぬことで、消極策としては、不善なる活動寫眞、その他の俗惡なる興行物、カフエー、飮食店、その他の取締、積極策としては、社會教育の普及、兒童の保護、善良なる民衆娛樂機關の設置などが必要であらう。

(三) この防止策が滿足に行はれたら、不良青少年少女の發生は大いに之を減ずることが出來ると思ふが、既に不良化したものは、感化又は保護の機關を設けて之を氣永く善導する事にせねばならぬ。家塾や宿舍創設は事前防止策としても效果があると思ふ。

不良青少年問題の研究

高橋月南

人口の都市集中を放任せる結果として近來都市に於ける特殊の犯罪が非常に多くなつた。社會風嬌の頽廢とか財界の不況とかは其の近因である。不良青少年少女の增加したことも此の都市における犯罪の副產物として決して見遁すことの出來ない現象である。大連における不良少年のことは、先に本誌上において報道したから、或は多少重複する點があるかも知れないが、大體のところ

一、不良青少年の現狀と其の處置

二、不良者を誘惑する各種の機關

三、之等の不良者を未然に防止する方法

の三項に分けて述べて見たいと思ふ。不良青少年の多い東京や大阪の如き大都市に於ては、警察の一部に少年係を設置して青少年者に關する一切の調査研究をなし、實際問題をも取扱ひ相當の成績を擧げてゐるが、大連にはまだ夫れ程多くの不良青少年は居ない。現在警察署の注意人物となつて居るのは二三十名位のもので、其の氏名の如きも本人の將來を考慮し絕對秘密にして居る。

一、大連の不良青少年

先ごろ不良少年團の巨頭と目されて居つた二三のものが脅迫罪で檢擧された。當時警察署としては出來得る限り秘密主義を執り、事件を社會に發表せずに處理したが、彼等は警察署を甘く見たか近頃益々不良行爲を逞うする樣になつた。少年組は活動寫眞を根城にして、小遣錢に窮すれば萬引をやつたり家庭から金品を窃取して來るのが關の山であるが、不良青年組になると異性に接近して淡い歡樂に耽つて見たい氣分になり、遂にカツフエーや飲食店に出入し從つて夫等に要する費用も增して來る所から、惡辣な手段

を講じて遊興費を捻出しやうとする。斯うして心が曲つて來ると、懐中無一物の際には飲食店で故意に亂暴を働いて酒代を踏み倒し、或は商店から商品を詐取するなど、次第にその手段が惡辣を極めて來るのである。

先に檢擧された一味の如きは、之れまで警察から幾回となく說諭された者であるが、それでも全く改悛の情がない斯くの如き不良者は家庭からも無論見離されて仕舞ふ。此のうち直接犯罪に關係したものは僅か三名であつたが此の不良團員は凡そ十名程あつて竊に惡いことを計畫して居つた。殊にその中には新聞記者も加擔し脅迫の如きも要するに新聞の公機を惡用したのである。少年組の方は夫れ程惡くはない、目下の處は寒い爲め野宿することも出來ず、何れも家庭に納つて學校へ通つてゐる。何んと言つても大連はまだ土地が狹いから、內地のやうに隱現出沒的に所在を晦まして惡事を働くといふことは絕對に出來ないのみならず、不良者の素質も內地のそれの樣に惡くないので、警察としては積極的に取締つて居ない。若し不良少女になると一層僅少でブツクリストに載つてゐるのは一人もない。一女學生が活辯と私通して問題になつた位のものである。時時少女の萬引がないでもないが被害者の方から警察へ屆出でないので正確なことは解らないさうだ。

內地の不良少年團の中には不良少女も混つてゐて、其の女が囮になつて、良家の子弟を誘惑する例もあるが、大連にはこの混合組はない。不良少女の少い爲めであらう。之等の不良青少年の性行を犯罪的に類別すると、遊惰浪費者が最も多く、次ぎは竊盜、浮浪、色情、賭博で、詐欺脅喝暴行爭鬪となると愈々本物になるのである。

更に彼等の思想的傾向を取調べて見ると、共產主義とか社會主義とかいふ過激思想はないが、一種の通有性とも見るべきは、自他の差別觀念が薄いことである。從つて竊盜を働くのは左程の罪惡のやうに思つて居ない。それに態度が傲慢不遜であること、誇大妄想的であること、變化の多い生活を好むこと、結團力が比較的强いこと等はその特色のやうであるから、危險思想に感染し易い素質は十分有つてゐる。此の以外において大連における特有の傾向と云つた樣なものは別に認められないやうだ。

二、家庭的及び社會的原因

之等の不良青少年を出すのは、家庭の罪であらうか、それとも社會の罪であらうか、と云ふと、私は家庭にも社會

にも双方に罪があらうと思ふ。詳細なる研究は專門家に讓つて茲にはその概要を左に摘記する。

(一)家庭的方面の觀察　從來不良少年少女の出づる主たる原因は家庭の缺陷に在りと堅く信じられて居つた程、それ程、家庭に密接な關係のあることは爭はれない事實である。然らば家庭の如何なる缺陷が純潔なる少年少女を惡化せしむるかと云ふに大要左の如きものである。

一、母親の手にて養育されたる者
二、繼母の手にて養育されたる者
三、兩親生存し且家計豐かなる者
四、兩親生存するも監督嚴重なる者
五、親戚に養育されたる者
六、放縱なる家庭に在る者
七、遊廓內又は之れと類似の環境內に生育したる者、或は其の附近に居住生育せる者
八、兩親に教育なく嗜好下劣なる者
九、父に酒癖のある者
十、一定の職業のない一家に育ちし者
十一、信仰なく親子の間に溫情の缺けたる者

以上の外猶ほ幾多の原因もあるだらうが、之れは大連に於ける不良者の家庭について取調べた結果である。要するに子女を養育すべき全責任者たる兩親に相當の教育があり常識に富み、子女に對して十分理解を持ち、圓滿なる家庭を作れる向には絕對に不良者を出さない。前記第三の『兩親生存し且つ家計豐かなる者』の一項は、不良者發生の原因と認められない樣に思はれるが、實際は上流家庭から比較的多くの不良者を出してゐる。大連に於ても二三その實例がある。いかに資產が豐かであつても、監督が嚴重に過ぎたり、兩親の素養が十分でなく且人格が下劣であつたり或は家庭的溫情に缺げて居れば、その子供を惡くするのは自然の勢ひである。貧乏人の家庭は物質的に惠れない代り精神的に好い處もある。學業の如きも有產者の子供よりも無產者のそれの方が概して好成績である。

今之を市內某中學校において問題になつた學生の家庭について少しく左に考察して見やう。

第一例、Aの家庭は中產階級であつて兩親共に生存して居るが、悲しいかな現代的教育に缺け、且頑迷にして其の子の性質を理解するの明なく、徒らに峻嚴であつた爲め、子供に僻み根性を持たせ、虛言を虛言と思はぬ樣になり、遂に不良性を感受するに至つた。この少年は諭示

退學になつて其後九州の中等學校へ轉じた。

第二例、Ｂの家庭はその母親が繼母であつた爲め全く家庭の情味に親しむ機會がなかつた。それに父親は官吏で常に出張不在であつた爲め、彼は家庭での不愉快を外部に需むるやうになり、遂に不良少年と交り、金品を窃取するに至つた。之れは父親の體面上內密にされ、その子供は目下東京の某校で學んでゐる。

第三例、Ｃの家庭は母親一人にて針仕事をなして通學せしめて居つたが、監督不行屆きであつた爲め、彼れは放縱なる生活をなし、屢々落第した結果、遂に學業を廢し軈て在學中の友人を誘惑して活動或は飲食店等へ出入する樣になり、その資金を得るため家類を入質し、斯くて次第に惡化したので、目下親戚へ預けてある。

（二）**社會的方面の觀察**　不良少年や青年を輩出せしむる誘惑機關の重なるものは活動寫眞である。活動寫眞の興味に滿足の出來ない青年は、カツフエーや飲食店へ出入して若い血に燃える異性に接し、刹那々々の歡樂に耽ることになる。更に色慾の增進したものは、遂に遊里に走るのが彼等の道程の常になつてゐるが、現在都市における社會組織は性質單純なる少年を誘き出すやうに出來上つてゐるので都市に不良青少年が多く出るのである。

內地では活動寫眞の弊害を取締るため、そのフイルムを嚴重に檢閲し、これを甲乙の兩種に分ち、甲種の映畫は大人のみに限り、乙種を大小人兩用として許可を與へてゐる大連に於ても開催中檢閲はするが單に風敎上から見て害がなければ可しとして許可を與へる丈だ。然るに一般識者間には旣に活動寫眞の弊害を認め、市內各小學校の如きも奬學會の世話で兒童に對し每月一回學校で映畫を觀覽せしめてゐる。水野警察署長は出來得れば大連も內地のやうに活動寫眞を甲乙種に區別したいと考へてゐるが、大連のやうな若い小都會で餘り嚴重に取締ると、その營業が持てないので、ツイ其の儘になつて居るのであると語つた。併し將來は檢閲を嚴重にする必要があるだらう。

飲食店やカツフエーも大連に多くなつた。此の種の營業が增加することは感心しない。是れまた不良者發生の誘惑機關である。大正十四年十月末に於ける大連市內の飲食店を調べて見ると、總數三百七十三軒で、雇婦女は四百五十一名であるが、同年一月末の現在は三百二十四軒の四百五十三名であつたから、軒數に於て四十七軒を增したことになる。元來此の種の營業は不景氣の場合に多く起る。以上

は飲食店のみの數であるが、其の外に料理店が四十七、貸席が三十、遊戯場が三十四ある。現在の大連市の人口と比較してみて少し多過ぎる感がある。

是等の飲食店に働く雇婦女の給料は極めて薄給であつて平均食事付き一箇月十圓位店によつては僅か五圓位のもある。祝儀の多い處では祝儀を當にして全く無給の所もある彼等としても毎月衣裳代も入れば白粉代も入るから何うしても媚を賣つて祝儀を貰はうとする。意志の薄弱なる青年は是等の婦女に魔せられて不正の金を浪費する樣になるのである。然るに現在のところ彼等に對しての取締りがなく雇婦女といふ一通の屆出によつて之を認め、社會的には何等の制裁がないので、彼等の魔の手は闇から闇へと延びて行くのである。關東廳では近く特殊婦人の取締法を發布するさうだが、社會風教のためには勿論、不良青少年發生の未前防止策としても、此種取締りの必要なることは明白であるから、是非實施されたいものである。

三、不良者發生の防止策

最後に是等の不良青少年を如何に處置すべきか、又これを未然に防止するの方法は如何、それが問題であるが、大連にはまだ何等の設備もなければ此の事に就いて眞劍に注意して居るものもない。然らば其の必要がないかと言ふに決してさうでない。設備があれば必ず利用されるに違ひない。今具體的に數字を擧げることは困難であるが大連にも保護感化の必要ある青少年が約二十名位ある。感化院を設けるか、少年矯正院見たやうなものを設けるか、或は家塾を設けるか、特別の青少年收容所を設けるか、何か一二の機關を設置する必要があると思ふ。

從來大連において不良少年又は青年に對する方法として取扱はれて來たものを左に列記する。

一、內地學校へ轉校せしめたること

二、學校當事者に依託したること

三、親戚へ依託したること

四、學校を罷め奉公せしめたること

五、內地へ歸還せしめたること

內地へ轉校せしめた中等學校の生徒は七八名の多きに達して居る。それは本人の名譽を汚さず再び善良者となるやうにとの方針からである。內地への轉校は一種の流罪であるが、甚だしく惡化してゐない學生は教員や親戚の宅へ預けられ、學業の劣等なものは學校を退學させて商店へ勤務

させる。某商店の小僧であつたのが賣掛代金を盗み、馬賊になる積りで奥地へ高飛びした處を奉天警察署で取押へられ、保護中巡査のピストルを盗み出して逃亡し、途中强盗を働いたといふ恐しい不良性を帶びたものもあつたが、それが十五六歳の少年であつた爲め、此の商店の不良少年は内地の親元へ還らしめたといふ事實もある。

現在内地に在る感化院の數は五十六箇所でこの收容人員は僅かに二千五百名に過ぎない。然るに各都市に於ける不良青少年の數は二萬人もあり、實際の收容者はその約一割位であるから、保護施設の範圍を擴めて『寺院若くば學園に依託することを得』と云ふことになつた。大連の如き何等の設備のない處では、如何に警察で取締つても、結局取締りの效がないといふ事になるだらう。

未然防止の方法としては各家庭の注意が第一である。能く共の子の性質を理解して、長所は之を助長し、短所は之を矯正し、且子供を家庭的に親しむやうにし、兒童心理の研究とその愛護に努めたならば、如何に社會的に誘惑が多くとも、その青少年の不良化する虞れは無い。

小澤氏の智光院宿泊所

令孃の早逝に一念發起しての社會事業

大連における社會事業の一として宿るに家なき薄倖な人人のために『智光院宿泊所』といふ無料宿泊所が昨年十二月九日から惠比須町九八番地に開所された。この智光院宿泊所は市内淡路町新隆洋行主小澤太兵衞氏の個人經營にかかるもので、小澤氏は常に社會事業のためには陰に陽に貢獻し來れる人であるが、今回同氏が私財を投じて自ら此の社會事業を起したことは、社會事業の振はない此の滿洲において、慥かに一つの光明を與へたものであると言つても過言ではない。智光院宿泊所は三層建煉瓦造の宏壯な家屋であるが今その設備概要を摘記すれば

煉瓦造二階建陸屋根地下室付にて前面三階、裏面二階

總建坪數(附屬屋共) 百八十五坪餘

延坪數 階上四十五坪餘、階下百四十五坪餘、地下室百十八坪余、計三百餘坪

内譯

階上 客室(六疊一間押入付 靴脱場リノリユーム半坪) 十室、娯樂場一室

階下 客室同上十室、喫煙所並びに圖書室一室、浴場、便所

地下室 事務所、控所、宿直及び備品納庫、煖房機關室、附屬屋二階建、監督員宿舍

之れが建築費は家屋(附屬屋及び煖房裝置共)約四萬圓を要したとのことであるが、一室毎に煖房の裝置ありて住心地のよい明るい室であるので、宿泊所としては殆ど一點の申分も無いわけである。最初小澤氏は此の建物を大連市の職業紹介所に使用されたいと申出で、大連市ではその好意に反せぬやう考究中であつたところ、其後小澤氏が自己の力を以て之を無料宿泊所に提供する事になつたのであつてその動機にはまことに意義深いものがある。

小澤氏の一人娘である喜舞子孃は東京三輪田高等女學校出身の才媛で、東京市外瀧の川町に二人の子の母として其の日を圓滿に送つてゐたが、不幸にもこの若き母喜舞子孃は、兩親に先だち二人の子等をさびしく殘して、昨秋十一月四日惡性感冒のために二十四歳を名殘に忽焉として此の地上を去つた。小澤氏はこの愛娘の早逝によつて一念發起し、せめて亡き靈への追善供養のためにもと、とゝに智光院宿泊所の計畫を起したとのことである。小澤氏のこの美しい動機から起つた此の社會事業は、栗木、山中兩氏の奔走によつて遺憾なく準備を了し、昨年十二月九日開所式を擧行した。式場に當てられた二階の廣間には故喜舞子孃の寫眞が掲げられてあつたが、來會者は五十餘名に達し、先づ栗木榮太郎氏の開會の挨拶あり、次に新隆洋行支配人山中福藏氏は小澤太兵衛氏の式辭を代讀し、更に設備概要の報告あり、それより田中民政署長、杉野市長、立川市會議長、本會の山田幹事長、高塚源一氏等の祝辭があり、終つて別室において饗應あり、更に記念撮影までして開所式を閉ぢた。猶ほ立川氏の發起の下に來會者一同より在京の小澤氏に宛て謝電を打つた。因に智光院宿泊所の名は故人の法名智光院賢明貞實大姉の中から取つて命名したもので此處にも小澤氏の床しい心持ちが察せられる。

同所における宿泊人收容能力は平時壹百人なるも、百四十人までは收容し得らるゝので、之れが開所費だけでも寢具備品等にて約二千五百圓を要したとの事である。猶ほ同

所では衣食に困る者のために授産の方法等も講じらるゝ筈である。これから薄倖な人々が如何に多く智光院宿泊所の恩惠に浴し限りなき感謝の涙を流すことだらう。

智光院宿泊所規程

一、本所ハ貧困者ニ無料ニテ宿泊セシムルヲ以テ目的トス
但シ當分ノ內日本內地人ニ限ル
二、本宿泊所ニ宿泊セントスルモノハ健康ノ者ニシテ民政署、警察署、市役所又ハ各社會事業團體ノ紹介狀ヲ持參シタル者ニ限ル
三、前項紹介狀ハ發行ノ日トモ五日間限リ有效トス若シ五日以上宿泊セントスルモノハ其ノ事情ニ依リ更ラニ前項ノ紹介狀ニ依リテ宿泊セシムルコトアルヘシ
四、前二項ノ紹介狀ハ他人ニ讓渡スルコトヲ得ス若シ不用トナリタルトキハ直ニ紹介サレタル所ニ返戾スヘシ
五、宿泊申込時間ハ左ノ通リトス
自四月至九月　午後六時ヨリ　午後八時マデ
自十月至三月　午後四時ヨリ　午後八時マデ
六、宿泊時間ハ左ノ通リトス
自四月至九月　午後七時ヨリ　翌日午前八時マデ
自十月至三月　午後五時ヨリ　翌日午前八時マデ
七、前項ノ時間外ニ於テ滯留スルコトヲ許サズ
八、本所宿泊者定員ハ每夜一百名トス
九、左記各號ノ一ニ該當スル者ハ一旦宿泊セシメ居ル者ト雖モ之レヲ取消シテ退去セシメ又ハ宿泊ヲ拒絕ス
一、宿泊定員ヲ超過シタルトキ
一、疾病者、精神病者、又ハ同宿者ノ嫌忌ヲ受クルカ如キ行爲アルモノ
一、泥醉者又ハ本所ノ係員ニ於テ宿泊セシムヘカラサルモノト認メタルモノ
十、宿泊者ハ所內ニ於テ左記各號ノ一ニ該當スル行爲アルコトヲ許サス
一、食事及ヒ飲酒スル事
一、法律ヲ以テ禁セラレタル事ハ勿論、喧嘩、口論等喧噪スルコト及ヒ他人ノ迷惑トナルヘキ擧動アル事
一、吃煙室以外ノ場所ニ於テ吃煙スル事
十一、宿泊者ニハ寢具ヲ貸與ス
十二、宿泊者ハ貸與サレタル寢具等ヲ每朝退所時間前ニ整頓シ係員ニ其員數ノ點檢ヲ受ケ返戾ス可シ
十三、宿泊者ハ每朝退所時間前ニ各自ノ宿泊シタル室內ヲ淸潔ニ掃除スヘシ
十四、宿泊者ハ午後十時マテニ從寢シ翌日午前六時マテニ必ラス起床スヘシ
十五、宿泊者ハ宿泊時間內ニ於テ外出スルコトヲ得ス
但シ止ヲ得サル事情アルトキハ係員ニ其ノ旨ヲ申出テ許可ヲ受クヘシ
十六、宿泊者ニシテ宿泊時間內ニ外出シタルトキハ必ラズ午後十時マデニ歸所スヘシ若シ之ヲ守ラズ十時ヲ過キタルトキハ入所ヲ拒絕ス

十七、宿泊者ガ備附品其他ノ物品ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ相當ノ金額ヲ賠償セシム
十八、宿泊者ハ係員ノ許可ナクシテ勝手ニ其ノ所持品ヲ寢室内ニ携帶スヘカラス
十九、係員ニ於テ必要ト認メタルトキハ宿泊者ノ所持品ヲ檢査スルコトアルヘシ
二十、本所ニ宿泊者スルモノハ所内ノ如何ナル場所ニ於テモ落書スルコトヲ禁ス
廿一、宿泊者ハ本規程ノ各項及ヒ所内各係員ノ申渡シヲ嚴守スヘシ若シ違反シタル者ハ退所セシム
廿二、本規程ハ必要ニ依リ改正スル事アルヘシ

開所式々辭

維時大正十四年十二月九日智光院宿泊所の開設に當り官民貴紳の御來臨の下に開所式を擧行するは本宿泊所の眞目的を達成せしむる上に於て最も意義あるのみならず經營者たる余の光榮之に過ぐるものなし此の時に際し本宿泊所開設の素志を披瀝して自己の箴誡となし併せて御來臨の各位と竝に一般社會の指導と鞭撻とを請ふ事は必らずしも徒爾ならずと信ず。

抑々方今文化進み文物制度自ら定まりたるは大正聖代の一大祥事にして萬民の幸慶之に過ぎたるものなし去りながら一面に於ては文化の進展に逆比例して身の不運に禍されて不幸に沈淪する人々少なしとせず卽ち其人自らに罪あるに非ず其人自らに過あるに非ずして而も衣食に惠まれざる人々あり又一時の過よりして悲境に陷り改過遷善大いに努力奮闘せんとするも時既に遲くして生業に未だ就き得ざる人々あり之れ一に運命の然らしむる處にして眞に同情に堪えざるものあり依つて之等の人々の爲めに玆に無料宿泊所を開設し先づ其の居住に一安定を與へ以て個人として將又社會人としての努力奮闘を完うせしめんと欲するなり本所開設の趣旨既に此處にあるを以て徒らに遊者惰民に好餌を與えんとするものに非らず況んや其の製造に於てをや眞に世の不運なる人々の爲めに其の活動に勇氣を添え又社會保健上に聊か貢獻せんとするの微意に外ならざるなり。

思ふに現代社會は眞に共存共榮生活にして一人と雖も徒食遊惰するを許さゞると同時に一人たりとも不運に泣く者あらばそれを扶け相率ゐて社會活動に共同せしめざるべからず之れ社會政策の施行せらるゝ所以にして又社會施設の行はるゝ所以なり余が玆に本宿泊所を開設したるは此趣旨に外ならず若し之によつて聊かたりとも社會奉仕の一端に資し得ば余の本懐之に過ぐるものなし冀くば官民各位竝に社會の御指導と御鞭撻とに依つて本事業をして意義あらしめられんことを爰に聊か所感を述べて本宿泊所開設の式辭となす

大正十四年十二月九日

小澤太兵衛

順逆と東洋思想

◎支那人に向つて順逆を說くのは西洋の倫理的觀念で東洋の思想を律する樣なもので有るとか何とか言ふものがあるが是ほど間違つた事はない◎日本と支那とは同じ東洋の國でその民族も等しく有色人種である。風俗や習慣や嗜好などには多少異なつた所があり文化的にも幾分の優劣はあるが大本においては同じだ◎思想においても道德においても昔から儒教又は佛教によつて共通した點がありその共通點は今日においても保たれて居る◎卽ち順逆なるものは元々支那の儒教思想から出たもので周末亂世の間際に孔子が魯史に依つて作つたと云ふ彼の『春秋』はこの順逆邪正を正したもので順逆の本家は支那に在るのだ◎されば順逆を支那の人に向つて說くのは西洋の倫理的觀念で東洋思想を律すると云ふが如き見當違ひのものではなく東洋の思想及び文化の共通點から言つて當然な事だ◎尤も現代支那は孔子が『春秋』を作つた間際のやうな亂世時代であつて順逆を顚倒し正邪を混淆し善惡を無視し大義名分を棄りて平然たる厚顏無耻の無道漢が盛んに出て來る◎師父の關係ある張作霖に反旗を飜へした郭松齡は武斷主義を排して文治主義を行ふがため又は民意に基づいた民衆政治を行ふか爲めに敢て鋒を逆にしたと言ふけれども其の言や當にならず且彼の行動は東洋の思想道德を蹂躪したものである◎無道漢を輩出する現代支那には斯うした道を說いても解るものは餘り多くあるまいと思ふけれども之を許すならば野心家や功利主義者を跋扈せしめて軍事に政治に經濟に支那は全くの破倫國となつて了ふだらう◎支那が若し斯樣な破倫國とならば夫れは同じ東洋に國する日本の不幸ではないか東洋の文化及び思想道德の純なるところが斯くして世界に發揚されると思ふか◎支那の事を論じやうと思ふものは支那の古代文化や經史や東洋の文化及び思想等の根源について十分硏究して欲しいものだ◎見當違ひな事をいふ勿れと言ふその人が大なる見當違ひをして居るに氣付かないのは困つたものだ◎吾々は東洋人として東洋のために日本と支那との共通點を能く考えてその文化と思想の健全なる發達を期するが爲めに努力したいものである◎それには小異を去つて大同に就き虛心に坦懷に私心を捨てゝ東洋のため支那及び日本のため大きな見地に立つて言動する必要がある◎新思想にのみ憧憬してハイカラ化し支那の薄ツペらな突飛的新人の如くにならぬやう我々日本人は注意したいものである。

社會問題彙報

新設準備中の女子媬育學校

大連敷島町日本組合基督教會牧師磯部敏郎氏の發起に依り女子媬育專門學校が大連に新設されることになつて準備は着々進行中であるから本年四月開校を見るに至るであらう磯部牧師は之に就いて語る『日本の女子高等教育が現在どういふ風に施されて居るかと言ふと家庭學若くば英語を中心として教育して居るものである女子が家庭學に通じると云ふことも實に必要な事である又英語の力を高調して世界的智識を獲得さすことに努めるのも日本婦人を向上さする所以であつて誠に必要缺ぐべからざるものである併し女子高等教育がこの二面にのみ意を注がれさへすれば可いと云ふ絶對的なものとはならない人間を造る一つの過程として他にも又行ふべき幾多の道があることを考へるが中でも媬育學といふことは可なりに重大な意義を有つたもので家庭學を施すと同等以上それが女子に必要であることが思はれる自分が女子媬育專門學校の設立を思ひ立つたのは此の故である』と。

上述の如き發起者の意見から新設される媬育專門學校は決して單なる媬姆の養成機關ではなく一般母性として修むべき高等教育機關として實現されるのであるが卒業者には當然媬姆の資格が與へられる茲において同校の出現は將來に於て滿洲の幼稚園を改革することも出來る二重の利得がある現在滿洲に於ける幼稚園に奉職する媬姆中に有資格がどれだけあるかを數へたら曉天の星にも等しほど殆ど無資格者ばかりである幼兒期の教育を托する者から言へば幼兒を心理學的に觀察し教育する有資格媬姆を希望せざるを得ないこの希望も同校の出現に依つて將來充分滿されるであらう。

遞信事務女子從業員の福音

遞信省では來年度豫算に新規事業として女子從業員の產前產後の保健費として三萬六千圓の經費を來議會に提出することゝなつた大阪遞信局において管内二府六縣下において遞信事務に從事してゐる女子の數は約七千人の多きに上り内判任官三百名を算してゐる此の女子從業員中の現在既婚者數は事務員二百十三人、判任官五十七人といふ少數でその内在職中に出產したこと十七回しかないといふ話しこの實數から推算して見ても從業員の出產は全國を通じて一箇年約二百回内外に止まるべく一人の產前產後の保健費は約百五十圓内外の支給を受けることゝなり女子從業員にとつては非常な福音であると言はれてゐる右につき大阪市内で最も多くの女子從業員を有してゐる大阪中央電話局では左の如く語る。

まだ何等の通知もないから產前產後の保健費を支給せられるとしても何ういふ方法で支給するものか少しも知りませんが女子從業員に取つては非常な福音ですまた電話事務の方から見て十四五歳の少女から事務にたづさはつて十八九歳といふ最も熟達した處で結婚のためにどん／＼退職して行くといふのが現状ですが遞信省として妊娠に對して保健費を何等かの形で支給すること

は既婚者をも就職せしめることが出來隨つて交換能率を增進せしめることゝなるであらうと思ひます今日までは從事員に姙娠者があつても休暇は與へるが日給は支給出來ないので姙娠して休んでも休んだだけは損をすることに成るわけですから結婚と同時に職を退くといふ形になつて居ますそのため現在既婚者は十人乃至十五人位しかないといふ始末です姙娠中のものに對して一箇月乃至二箇月に亘つて休暇をなさしめ而してその休暇中の日給を支給するか又は之れに對し保健費を給與するやうになれば女子從業員は非常に喜ぶことでしやう。

青年の訓練と年齡上の制限

十五年度から實施する一般的青少年訓練は青年團を中心として行はれるものである が現在の靑年團には年齡上の制限が殆んど行はれて居らず訓練實施上に種々面白くない點があるので陸軍當局は之等諸點について研究中であつたが差當り在鄕軍人及び現役服務中の兵卒を青年團から除外するを便とすることに意見が一致し此旨內務當局に進言して靑年團に關する諸制度の改正方立案を依賴した從來の靑年團は年齡に關する制限が餘りに緩やかであつた爲め多數の壯年者をも含み在鄕軍人及び現役中の兵卒は殆んど靑年團員となつて居るのであるが偖て靑年團に對して訓練を實施することになると既に訓練を受けてゐる之等の團員は訓練を受ける義務がないことになるので此の點の改正が當面の急となる譯である。

その改正は當然(一)滿廿歲以上の者を靑年團から除外するか(二)在鄕軍人と現役服務中の兵卒のみを除外するか(三)列擧主義によつて靑年團中のこれ〳〵のものを訓練すると規定するか何れかその一乃至は以上のものを混合したものとなる事であらう何れにせよ現在の靑年團は纒まりないのものであり從來の行き方や歷史があるので急に現在の靑年團から在鄕軍人全部を除外すると面白くないことが起らうといふので陸軍側は此の點の改正に就き最も妥當な立案をされたき旨內務當局に意見を申出てゐるが若し年齡の制限主義を取ることになれば一般靑年團の最低年限は十四歲說と十七歲說とがあるから最高年限が二十歲と決する時は將來の靑年團は十四歲よりとすれば七年間十七歲よりとすれば四年訓練を受ける理窟となるが仕事は內務・文部及び陸軍三省共同のものであり就中組織の改正は內務所管であるから陸軍としては是非十五年度の實施に間に合ふやう要望してゐる。

關東廳の補助費も緊縮方針

關東廳管內に於て社會事業、學校教育、公衆衛生、產業奬勵の名稱を以て關東廳に年々補助を仰いで居るものが五六十萬圓の巨額に達して居るが明年度に於て補助を乞ふべき大連市內のものは何れも民政署に提出し民政署ではそれ〳〵理由を附して關東廳に申達して居る多くは前年度通りで目新しいものとしてはラヂオ新聞や老虎灘の水產漁業者のものゝみで他は前年度同樣のものである大連市內では慈惠病院、商業會議所、赤十字社救濟、恩賜奬學會基金、學校敎育(公學堂、普通學堂も含む)衛生試驗所南滿敎育其他新聞通信事業產業奬勵費等にして市內だけも二十萬圓內外である。

明年度は關東廳に於ても緊縮方針をとつてゐる關係上既定のもの以外には多くの補助が出來かねるやうであると大連民政署で

も語つてゐるが從來關東廳は産業奬勵費として種々の方面に補助してゐたところ財界が不況になり搗て丶加へて一般の補助熱が高調したゝめ關東廳でも嚴密な意味において補助の價値あるもの以外は全く新たに補助をしなくなつて最近では著しく此の方面の補助が少くなり棉花協會とかその他特殊のもの丶外はない事にして居るが明年度の補助金にして關東廳も決して放漫なことはしない方針であるとの事である。

愛に滿ちたる低能兒の敎育

　昨年九月なかばごろ京阪沿線寢屋川大阪敎育治療院の島村保穗氏を十歳ぐらゐの男の子をつれた婦人が訪れて子供の敎育を頼んだ子供は十一歳で高い家屋に平氣で昇り便所の糞壺の上でブランコをして汚いことを知らぬそれに毎日五回も癲癇を起すなどさんざ島村氏を困らしたが先づ晝寢をさゝないやうに御飯を食べすごさないやうにそして運動をすゝめて刺戟をなるべく少くして骨折つたところ周圍の靜寂と空氣の淸澄と相まつて今ではすつかり見ちがへるやうになつた更に他の一人の子供は小學校五年生を終へたが一年生のとき大病をやつて片假名もろく／＼覺えないうちに二年生となつたので基礎のないところへ上層建築をやつたわけとなり家庭の者からは低能扱ひをされ姉さんたちの嫁入の邪魔ものだつたところそれを島村氏が調べるとメンタルテストは九十三（普通兒は一〇〇）なのでその長所を發揮するやうに指導するとメキ／＼と智能と共に學問が進み今では商業學校へ入學させたいと力むやうになつた。

　大阪敎育治療院は島村氏夫妻の畢生の事業で悲しい事情のために惠まれず社會の日蔭ものである低能兒に天國を與へるところである現在男子十三名女子七名で遠くは臺灣、大連から來てゐる島村氏は語る『低能兒と一口にいつてもめい／＼特長のあるものです斯うしてゐますと普通兒と劣つてゐるとどうしても思へなくなります私のところは家庭的で大きな子供は小さいものを風呂に入れたり御飯を盛つてやつたり弟妹のやうに可愛がります低能兒の敎育は愛ですお互の溫い心が觸れ合はねばいけませんたいてい此處にくる子供は大便をしても拭くことを知りません私はこれを敎へるために夜中にでも何度一緒に厠へ入つて子供のお尻をふいてやつたことか澁い顏をせず心よく世話してやるところに微妙な特種敎育の味があるのです私は世間で子供にもつと氣をつけて貰ひたいと思つて子供の性能、學校の選擇、玩具の選び方などの相談に應ずるために『兒童敎育相談部』を設けてゐます今までの貧しい經驗の結果でも子供に對する親達の敎育をもつとしなければいけないとつく／＼と深く感じてゐます』と。

特殊婦人の取締規則の改正

　我が特殊婦人問題は曾て國際聯盟理事會の議題にも上り關係諸國の注意を促したこともあり內地に於ても夙に重要なる社會問題として各方面に於て論議されて居るのであるが關東廳に於ても現行の不完全なる藝酌婦取締に關する法規を改め少くとも社會的公正の觀念に合致すべき法規を制定せんと久しき以前より之が調査研究に着手して居たところ最近主任者の間に略々大體方針を決定し近く法案を起草するやに傳へられて居る仄聞する處に據れば新たに制定さるる藝酌婦雇婦女取締規則は原則として賣笑

行爲を嚴禁し從來の如く酌婦には之を公認し藝者には之を禁ずると云ふが如き慣習的の特例を認めず特殊婦人を藝者、酌婦及び雇婦女の三種に區分し支那女優の如きも法規上藝者の中に一括し酌婦は從來の如く娼妓の範圍に限らず苟くも營業として客席に待つて盃盤の周旋を爲す一切の婦女の總稱と成るからバーやカフエーのウエートレスの如きも酌婦と認めらるゝ事となる可く雇婦女は特殊營業者の家に使用さるゝ藝酌婦以外の婦人の總稱となる譯である。

之等の特殊婦人は原則として自己のために營業する者と認めらるゝため從來の如く當局者に於て前借や年期等の點に干渉するが如き方針を全廢すべく置屋樓主等は相當の打擊を蒙ることゝなるであらう特に一切賣笑行爲を禁斷する方針であるから現在の遊廓の如きも單に料理屋として認めらるゝに過ぎず當局の手加減如何は別問題として法規上全然廢娼制度となるわけだ。

驚くほど增加した職業婦人

婦人の解放はまづ婦人を經濟的に獨立させることであるこれは理論の時代を過ぎて既に實行の時代に入つてゐるそして又それは如實に現はれつゝある卽ち職業婦人が日一日とその數を增してゐる事それ自體である殊に震災後大阪市の職業婦人は驚くほど增して來たマサカの場合を考慮して女の腕に生活の安定を得るだけの職業を握つて置かうといふ心がけにも依るものだがその根源は若き婦人達が己れに目覺めて經濟的にしつくりとした根をおろさうといふに外ならぬので女子をして二重の桎梏から離れんために斯うした在阪の職業婦人を團結せしめるべく今回職業婦人聯盟が大阪港區新池田町から產聲をあげる事になつた。

發起人は大阪市立京町堀婦人職業紹介所の井上一四、婦人ホームの谷口盆枝、某會社事務員永田清美の三女史らで女敎員、女事務員、看護婦、女給、女工、タイピストなど凡ゆる職業婦人を糾合して客年十二月中に創立した大阪としては在來タイピスト組合、產婆組合など部分的のものはあるがかうした全體的の糾合は始めてゞ地位の向上、知能の啓發、德性の涵養そして幸福な社會の建設のため堅實な發達を遂げると力んでゐる職業婦人の增加と共に此くの如き聯盟が出來るのは寧ろ當然であらう。

世界ぢうの子供たちの交際

手紙一ッ寫眞一枚で世界ぢうのまだ見ぬ子供たちが兄弟のやうな仲よしになれるそれを日本の赤十字少年團では今ひんぱんにやつてゐます赤十字本社では英國や米國の子供の手紙はすぐほんやくできますがベルギーやポーランドやチエッコ●スロバキアなどのは直ぐほんやくできないので外國語學校にたのんでほんやくしてから渡します日本語の手紙を受けとつてこまつてゐる國もありませう今まで手紙をかうくわんした國にはアメリカ、イギリス、フランス、ベルギー、ポーランド、チエッコ●スロバアキア、ハンガリー、オースタリー、カナダ、コユウジランド、エストニア、セルビア、イタリーなど十數箇國になりますおたがひにおくつたものが能くわからないでは面白くないので『目で見ておもしろいものをおくりませう』と云ふ約束をしてゐます手紙のかうくわんと云つても一人と一人とやるのでなく一つの團員どうして纏めてやることになつてゐます最近イギリスのケント州

ダートフォードの團では『日本の海港地か工業地とかうさいし度い』と言つて來ましたので日本では愛知支部の少年團とかうさいするやうにしましたさうして愛知支部ではりつぱなアルバムをおくりました。

地震前日本をおとづれたアメリカの社會事業家ギルバート夫人は『日本の子供はれいぎたゞしい』と故郷のペンシルバニヤ州のウオスコニスコの團員に話したのでそこの團では町の名産『無煙炭されん炭』のかけらをおくつて來ましたそして『これは石炭のくづとメリケン粉とさうもろこしの粉を藥でかためたもので世界ぢうに出ます』とつけくはへて有りましたなか〳〵じよさいないものですこの間仙臺から『森の都よりパリの少年へ』と云つておくつたアルバムは實にりつぱでした『伊達正宗や支倉常長は土地の偉人です常長はむかしローマへ行きました』と云つた繪はきつとフランスの子供にめづらしがられるでせうアメリカの子供は『日いづる日本の子よ』としたつて來ますしベルギーやポーランドの子供は『さくら咲く日本の國』とあこがれて來ます先頃北海道厚眞の國からおくつた日本の人形を米國のノースカロリナ州のコウトウエルの團があまりかはいゝのでその人形を團員の一人にしたと云ふがごときはアメリカの子供と日本の子供が仲よしになつたよい實例ですと少年赤十字の團員は語つたが國際上洵に麗はしい事柄である。

社會事業の聯絡と失業防止

都會に集る人員はいよ〳〵急激となり當局が必死になつて社會施設を行うても容易に追つかない之れがため各種の社會的缺陷と相待つて幾多の社會問題が釀される大阪府市の公私社會施設は異狀の發達をしてゐるがその對象たる社會狀態の變遷に果してうまく伴うてゐるかどうか此の點につき府社會課は種々苦心の結果新たに社會事業の一大聯絡機關を設くることゝなり今回大阪社會事業聯盟なるものを組織したそして府下二百有餘の事業團體および機關の聯絡と統一を期することになつた例へば是まで市の宿泊所が滿員で府の宿泊所が空員の多い場合などはそのまゝに放任されてあつたが今回から相互に聯絡をとり圓滑を期する一方事業の進展を共同的に行ふといふのである聯盟事業中には特に研究部を設け兒童保護、經濟施設、診療ならびに救護、社會敎化等に關するものを研究せしめる他の一つとしては近く西成郡役所の跡と泉尾町に保嬰館を設けるこれは大阪の乳兒死亡率が全國で一番といふ有難くない稱があるので生後の嬰兒を養育する機關とする第一着手として西成郡役所の方は晝間二十名、夜間二十名を收容し泉尾の方は晝夜間四十名を收容するがもちろん收容するものは養育の資料なきもので若し空席があれば相當實費を支出するものにも適用する晝間は特に仕事に出かける人々のために設けたもので榮養料は生後間もないものには乳母を雇入れ母乳を與へ百日も經過したものは牛乳を與へる嬰兒の間は母乳でないと成育が完全にゆかぬらしい猶ほ階下を講演場として哺乳の仕方、嬰兒の育て方等育兒に必要なことがらを母親達を集めて講演することの保嬰館は追つて市內各所にも增設する由。

それと共に更に失業防止に關しては失業防止委員會を設け昨年中その第一回委員會を開き諸般の打合せを行ふたが斯うして十一月初旬中に實現された失業者は主として

府の土木事業に從事せしめた採用は登錄制さなし市の職業紹介所で家族の有無、年齢その他を調査したものを採用する人員および賃金は追つて定められるとの事。

增加する乞食と乞食の素性

不景氣になるにつれて乞食の數がふえて來るそして乞食が多くなると空巢狙ひ掻ッ浚い孤鼠泥が多くなると云ふ順序になつて居るこの乞食と空巢狙ひとの間にはどうした因果關係があるのか知らぬが過般大阪府廳に行はれた近接二府六縣の警察部長會議の議案に乞食取締の件といふ事項があり又癩患者や疾病者が神佛閣の境内に橫行し美風を損ひ不用心極まるものであると云ふ理由で大阪府保安課では客年十一月二日より六日間市内各署に命じて乞食特別取締厲行をやつた其の結果二百四十七人の乞食を擧げたが其の內男は二百三人で最も多かつのが戎署轄內の五十名と今宮の四十二名、女は少く四十四名で乞食の多いのは戎、今宮朝日橋方面であつたこの二百四十七名の乞食中で健康者が百三十三名もあり疾病者が百十四名で健康者の方が多かつた。

何ゆゑ乞食になつたか矢張り一番多いのは病氣のために癩病が十八名、肺病が二名その他梅毒、眼病、腦病、神經痛といつたようなもので次は老衰して扶養義務者がなく止むを得ず乞食をするもの健康ではあるが失職に失職と相續いて働くのが嫌になり半年前から又は一月前から乞食を始めたといふ極新米が多くそれかと思ふと親子三代續いて乞食を生業と考へて居る者もあり生れるときから乞食をして居るといふ福岡佐美村の泉某などは今年五十八年の乞食生活をしてゐる者である又二三歲の頃兩親に死別し京都に里子にやられ小學校の三年まで行つたがそれきり印刷工見習ひになり十九から一人前の職工として大阪の大寶寺町あたりで二十九まで勤めてゐたが働く事がいやになり遂に乞食して暮してゐる奈良市小川町生れの島田某なるものあり又大阪に生まれ小學校をおえて志しを立て上京して畫家になつたが大震災にやられて歸阪し乞食に成つたといふ大津賀某など大分毛色の異つた者もあるが健康者の百三十三名といふ者は重なる失敗に志し折れ食つてさえ居ればよいと言つた向上心のない人生に倦怠しきつた人々であつたと云ふことだ。

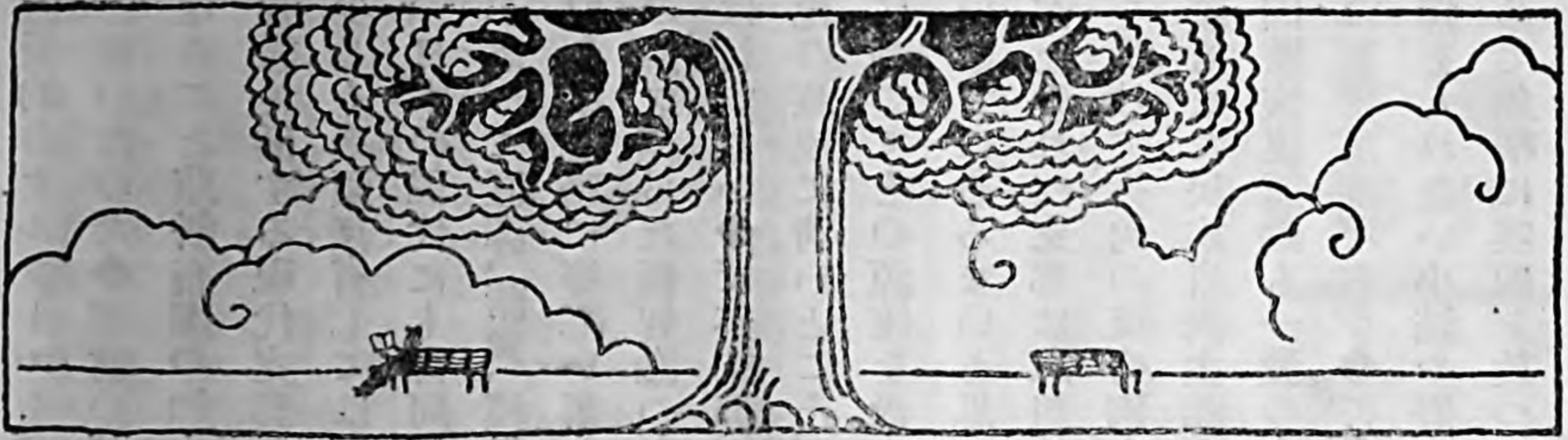
宗教法制定と類似宗教取締

文部省では今日宗教法制度に伴ひ宗教の範圍に入つて居ないもので而も宗教類似の行爲をなすものを全國に亘つて一齊に調査を行ふことになつた之は宗教が國民思想の上に重大なる關係を有するものなるにも關はらず明治維新以來政府がこの宗教に對して餘りに冷遇を與へた爲め宗教は正しい發達を碍げられて色々の迷信邪教等が續出し國民思想の混亂惡花を來したので今回宗敎法を定めて宗教に對して國家として保護すべき點はこの法律を以て保護し宗教の正しい發達を助長しやうと云ふのであるがそれに就いて未だ宗教の部類に入つてゐないもので宗教と類似の行爲をなすものは當然之な取締り正しいものは益々正しく導くと同時にいかがはしい者はどしどし改革せしめる必要があるため全國の各府縣廳に命じて嚴密なる調査を行はしめることになつた此の宗教にあらずして而も宗教と類似の行爲をなすものは全國で可なりの數になるが就中東京と京都が最も多いさうである。

現代支那

◆支那は孔孟の如き聖人賢者を出した古い文化國であるが現代の支那は茶々滅茶苦茶といふ有様だ◆士太夫の學たる孔孟の教えは本場の支那よりも却つて出店の日本の方に保たれて居り肝腎な本店には形骸だけ殘つて居るに過ぎない◆孔孟の教えには時代錯誤的のところも尠くないが其の精神には好いところがあつてこの點は萬古不朽だ◆然るに現代の支那漢民族は辜鴻銘翁の言へる如く權勢慾と功利慾の激しい野心家揃ひの軍閥と自ら新智識と稱する薄ツぺらな半可通の外國留學生とに依つて火と水とのやうな兩極の爭ひをして居るのだから堪らない◆この野心的軍閥の頭棟であつた袁世凱が武漢に起擧した辛亥革命を骨抜き餡にすると共に自ら洪憲朝を建てゝ帝位に卽こうとしたとき北京大學方面から孔教排斥が起つた◆この排孔は袁が儒教を利用して之を支那の國教にしやうと企んだのに對し思想及び信仰の自由を論據として起つたものであるが◆同時に共和民國となつた現代支那には帝王の學たる孔教など無用だとの意味も含まれてゐた◆成程帝王がなければ周室を中心として忠孝仁義の道や順逆の事や大義名分を明かにした孔子の教えは無用の長物であるかも知れない◆支那の新智識人たる先生たちは排孔教と共に科學尊重論を高調し次いでキリスト教を目標としての宗教排斥まで遣つたものである◆それが眞面目の動機に出發した事であれば多少傾聽に値ひするも此の宗教排斥は英米の思想侵略に對する排外的敵愾心の現はれであつた◆民族の自覺に基づいた不義不正を敵としての排外なら之を諒とするに吝かでないが『敵は本能寺に在り』と云つた樣な明智光秀的のものでは識者の共鳴を博し難い◆思想侵略と云ふことが主權侵害と共に許し難いものであるなら支那の新智識人がボリシエヴイズムに隨喜の涙を垂れるのは最も間違つて居る◆モスクワから來るこの外來思想に侵略されまいと思ふならマルクスの唯物史觀などに安價な共鳴を連發しないで支那それ自身の純なる文化と思想に還るべしだ◆西洋でも科學的機械文明の弊に堪えないでカントに還れと云ふ聲が起つたが之を支那に當箝めていへば卽ち孔孟に還れとの意味である◆孔孟に還つて思想の清い源流を汲むならばその時代錯誤的のところは之を時代に適應するやうに改め決して科學的、機械的、物質的の外來思想に憧憬は出來ない筈だ◆ルツソーは推理を捨てゝ直覺を取れと言つたそれは推理主義のシビリゼーションよりも

直覺的のクルツールを尊ばねばならぬと言つたのだ◆辜翁の謂ゆる薄ツぺらなることと煎餅布團の如くにして自ら新智識と稱する現代支那の半可通先生は少しく冷頭反省しては何うだ◆尤も我が日本の現代にも御同樣の半可通先生があつて直譯、請賣、模倣といふ鵜の眞似をする鴉に等しい事をするから支那の薄ツぺらな新智識のみを嗤ふわけには行かない◆だが支那における古代文化の源流に淸いところがある以上少しは溯つてその源流を汲んでみるのも惡い事ではあるまいと思ふ◆この反省力がなければ支那は思想的にも他の征服を受けて折角の反帝國主義も反資本主義もまた民族自決主義もそれより起る國權恢復運動も一發の空砲にだも若かぬ事になるだらう◆否今日の支那は實彈を入れない小銃や野砲に彈藥だけ込めて無暗に空砲を放つてゐる◆若夫れ大多數の支那民族は『帝力吾においで何かあらむ』との傳統思想に浸つて居て彈讓放伐も易姓革鼎も權勢慾と功利慾との軍閥の爭ひも堂に入つて奧に入らないハイカラ新人や野心的政客の事も總べて不關焉だ◆そして自ら活き自ら營んで行くのは全く感心するが不關焉と同時に無自覺であるが爲めに屢々主權者を交へ幾度となく軍閥及び官僚の苛歛誅求に遇ひ更に野心的政客やハイカラ新人の煽動に乘りて妄動するのである◆此頃は支那の軍閥も『民意尊重』を看板にして互ひに內輪喧嘩をして居るが其の多くは民衆をダシに使つてゐるに過ぎない◆奉軍に寢返りを打つた郭松齡も馮玉祥の國民軍の眞似をして『民意尊重』の下に保境安民の實際政治を東三省に行はんが爲め師父の關係ある張作霖に反旗を飜へしたのであると言つた◆實際なら『大義親を滅す』でその反逆も或點までは恕することが出來るが亂臣賊子を懼れしめた孔子春秋の筆鋒を以てすれば餘りに順逆を顚倒し過ぎた變學である◆元來が禪讓放伐と易姓革鼎を繰返して來た國柄であり遂に共和民國となつて尊孔主義が排孔主義となると云ふ狀態であるから順逆の道や大義名分など言つても通用せぬかも知れぬ◆王覇の辨や順逆の別は支那の古代文化から出たのであるから支那人にも之を說くのは決して見當違ひではないが保守頑冥の軍閥や發財主義の政客や急進突飛の新人が跋扈する現代支那には不向かも知れぬ◆無學の草賊から成上つた誇大妄想狂の軍閥主腦者に寢返りを打つ反逆者が出たのも當然といへば當然であるが寔に困つたものである◆斯うして現代支那が形體的にも精神的にも滅茶苦茶になつて行くのは支那の危險で又東洋の危險だ。



冬日抄

信子

あたたかき磯砂原の日溜りにいつかすわりてきく浪の音

み冬雲凝りてくらき沖つ邊に光りつめたき波がしらかも

待つ子らもなしとおもへばひとの採る貝も拾はで聞ける潮鳴り

玉さはる生命やすけし暖き冬のなぎさに身を曝しつゝ

音に鳴かぬ一羽の鵜しみ〴〵と見つゝ久しも冬の渚に

◆

冬の陽は照らせど寒き山路の家居ひそけく咲ける山茶花

山腹の樹立ちしるけきひとところい群れて鳩は降りたちにけり

鳩の群れこも〴〵啼きつ降りて來し森をそがひに沈む夕つ陽

冬ふかみ暮るゝに早き陽の色をさみしみ見つゝ山路くだれり

畠道の一本高き松の木に夕さむ〴〵と時雨來にけり

舗道に枝重らしゐる枯柳夕べ時雨れてさむけくし見ゆ



永遠に生きる

無聽房主人

『永遠に活きる』とは何んな意味のことであらうか?

全體そんな考へを起すのは、これも人間の利己的動機からで、現世に活きた上、仕たい放題の事をして、猶ほ永遠に活きやうとは、餘りに虫の好過ぎる考へではなからうか?

さう考へればマアそんなものかも知れない。

元來は無所有、無所得で、卽ち本來空だ。本來空から出て來た人間が、これは俺の物だ、これは俺の家族の物だ、俺の力で作つた物だ、と凡ゆる物に執着をかけるので、どこ迄も『俺』といふ考えが附き纏つて、死に臨んでも『俺』といふ自儘な考えを起すのだ。

斯うして『永遠に活きる』などゝ思ふのは飛んでもない大妄想だ。

『靈魂は不滅だ』、隨つて『個人として俺の靈魂も不滅だ』

斯んな考えを抱いて『永遠に活きる』と思ふのも人間の淺墓な智慧だ。

併し『萬物の靈は慥かに不滅』だ。靈が不滅であればこそ、生き代り、死に代り、さうして無始無終に繼縮するのだ。だから人間に宿つた靈も不滅には違ひないのだ。

そこで『永遠に活きる』と云ふことを別の方面から考ねて見る必要がある。

夙うに死んでしまつた人間の名が殘るのは何ういふわけか。或は神に祀られて居るやうな人間があるのは何ういふわけか。善かれ、惡かれ、どこの國にも、どこの民族の間にも、こうして永遠に活きてゆく者がある。それは一體全體どうしたわけだらう？

個人間にも、家族間にも、語り傳へられて活きてゆく人がある。

歷史のページに載つて、幾久しく、後の世までも語り傳へられる人がある。

『永遠に活きる』とはつまりさう云ふ意味のものであらうか？

或ひはそんなものかも知れない。併しそれ丈では餘りに呆氣ない。

神の如き心を以て現世に處した人、現世で苦み拔いても神のやうな心を失はなかつた人、凡ゆる苦艱に生きた人、その神の如き心を現世の上に何等かの形で具象化した人、さうして喜んで神の許に歸した人、さう云ふ人が眞に『永遠に活きる』のではなからうか？

獸性の强い惡人でも未來に永く活きてゆくのがある。併しそれは善人の對照として活きてゐるに過ぎ

ない。つまり善人を輝かすがための御伴合ひに活きてゐるのだ。

現在は過去の續きで、同時にまた、未來への續きだ。珠數はそれを形に表はしたものだ。だから現在がいつち大切だ。過去の累積に報ひ、未來への貢献を心掛くる、斯うして現世に活きた人が神の如き善人であらうと思ふが、この種の人は慥かに『永遠に活きる』

お金をたくさん拵らへたり、そのお金の光で輝いたり、勳等や位階などで光つたりする人は、生きてゐる現世で持囃されるかも知れないが、『永遠に活きる』ことは出來ない。

現世で謂ゆる立身出世して、生活に少しの不自由もなく、有頂天になつて生きるもの、權勢や利祿に憬がれるもの、功利主義のもの、是等も永遠に活きられぬ。

物に生きるものは肉と共に滅び、靈に生きるものは靈と共に活きる。

靈の力は神秘的だ。靈を汚さず、常にその淸めを怠らないで、靈の導くがまゝに我れといふものを忘れて働らいた人、無所有、無所得の本來空となり、裸一貫で眞面目に生きぬく人、それが『永遠に活きる』人であらう。彼等の靈はその事業の上に、或は人々の心のうちに宿り、さうして本來の不滅の靈と共にその者の靈も活きる。形は滅しても靈の力は活きる。

後人をして肅然と襟を正さしむるやうな人でなければ永遠に生きられぬ。

『永遠に活きる』とは神の下に靈の力で地上に化を垂れることだ。

神のものは神に還る。自然より出でたものは自然に戻る。生はその出で死はその入だ。出で來つて神に背くやうな者は入るときに救はれない。そんなやくざ者は、生時にいくら時めいても、死時には煙になつて消ゐてしまう。斯んなものが『永遠に活きる』道理はない。

出て來た以上、たゞまつ直ぐに生きよ、さうして安らかに死に入れよ。

神より與ゐられた靈を汚さないものが『永遠に生き得る』のだ。

『永遠に活きる』と云ふことを俺はこんな風に思つてゐる。



子供情景（一）

中溝新一

新年を待つ心

それは私の二人の愛兒達にも親達の言葉によつて朧氣に新春の樂しい感じを抱いて居るらしい。上は女で陽子と呼び明くれば四歲である。下の兒は男で正保といふのだが三歲。普通家人は正保のことをセーちやんと呼んで居る。愛兒が歲子である關係上、もうあとが出來てもいい頃だとひやかし半分によく

聞かされることがあるが、親として子供さへつくればよいと云ふやうな無責任な感じは持つことが出來ない。子供に對する親の慈愛と責任とは私の貧弱なる經濟を超へてはあり得る筈がない。

新春を待つ心――

愛兒達の上には輝きに充ちた春の陽が彼等を幸福の世界に導いてくれるものだと考へて居ることは事實である。その喜びは新春に對する理解といふよりも寧ろ家人達の言葉に依つて自己の無邪氣な欲望を滿足せしめることに歸着するのである。

妻が正保に添乳するので、私は毎晩陽子を抱いて寢るが、私の貧しい經驗に徴して愛兒達の世界を記錄してみることは親としての當然の義務であり、且つ力強い道程のあらわれでなければならぬ。

陽子が生れた當時、なんら經驗のない家人によつて取扱はれた滑稽の眞實に對しては、今でこそ笑話になつて居はするが、その當時のうろたへかたは十人も子供を持つた東京の母に見せたかつた位である。兎に角安產の喜びと同時に命名に對する苦心が湧きあがつて來た。これは必らずしも私一人の經驗ではないのだが、結局は迷ひに迷つて私が日頃御厄介になつて居る若き老人立川雲平氏に命名をお願ひすることになつた。間もなく『一陽來福』と紙に書いて此の中から好きな一字をとれといふのである。私はその紙を持つてまだ海のものとも山のものともつかぬ赤ン坊の枕元に座つた。赤ン坊はスヤスヤ寢て居る

だけである。一をカツと讀むのもよい、陽子もよい、福子も平凡ではあるが面白い。『來』の字だけを除くと、どれでも立派な名前である。結局陽子といふ名前を得た。ヨウといふのは決して珍らしくはないが、陽といふ漢字を使用するのは割合に尠いと、こう思ひ込んだからである。事實私は立川氏に依賴する前、私でも考へたのであることは勿論で、數種の中で『地子』といふのが好きだつた。子の字をとれば『地』一字であつて、叔父も叔母も妻もあまり突飛なので受附なかつたものだ。しかし呼び名にしてそうと呼んでみると、言ふに言はれぬかわいさが出て來る。

『地子ちやん……チコチヤン』

なんともいへぬ面白味があることは、二三度繰返へして居るうちに明瞭にならうと思ふ。

次は正保である。東京の父に依賴したところ『女の時は正子、男の時は正保』と言つて來たが、私はいつもお七夜を待たず『オギヤア』の一聲と共に命名してしまう關係上、豫め名を作つて置くので、父に早くから依賴したものである。唯ここで父は命名と同時に『若しお前が命名をする際は保の字を避けるやうに』といふ添書があつた。保は私の家の先祖が使つた名であるからである。東京青山墓地には祖父の保辰と書いた墓のあることを知つて居る。父の物堅い親しみを知ることが出來る。

陽子は私達夫婦の力といふよりも同居してゐる叔父叔母その他家人の手に依つて順調に育つた。非常

に肥立がよくはあつたが、長尾博士の著者などに依つて子供の通じによく留意するやうになつた。習慣から大小便を下卑たものにして居た關係上、一寸閉口したことがあつたが、すぐに馴れてしまつて、通じのない日にはグリセリン座薬などを挿入して、その效驗があると、人知れぬ喜びを持つたものである『通じ』は子供の全生命である。子供には限らないのだが、少しでも氣分がよくない場合には、それが例へ風邪であらうが、怪我であらうが、先づ通じをつけることである。近所の高橋醫師を主治醫にはして居るが、妻達はその應急策として奇應丸を神の如く信じて居た。全くよく利くものらしい。しかし何うしたものか夜泣きをやつて困らせたことがある。家人は夜半近くに寢て漸く布團も暖まつた頃になるとウワーッと泣き出すのであつて、これには私が先づ手古摺つた。一時間乃至二時間餘も夜中の二三時頃泣き叫ぶ陽子を抱いてベランダに出るのはたまらなかつた。

市内を遠く離れた聖德街はアーク燈を除いて多くはまつくらにして安らかな眠りに落ちて居る。初夏の夜露がしつとりと重たく下りて居るが、陽子のむづかりは容易に休まりそうにもないので、仕舞には家中起きてくることが往々ある。それを東京の母が聽き傳へて『鬼の念佛』と川崎大師の虫封じのお守りを送つて來た。母の心盡しはうれしかつたが餘り使はれずに影をひそめてしまつた。

アカシヤの並樹が大連市を彩る頃になると星ヶ浦や老虎灘あたりの海が喜ばれて來る。私の家の前に

通る電車が貸切りで海水浴に行く子供達を運ぶと、私もまた勤務後の僅かな時間を割いて陽子達を海へ連れて行つた。陽子も海に馴れる頃は日やけで眞黑になつた。こうなると男だか女だかわからない。砂濱へ靜かに寄せる小波を前に日いつぱい遊んだが、いつも身體を拭ふとブランコや遊動圓木や滑べり臺で遊んだ。正保も少しづゝ歩くやうになつた。今年の夏は二人とも星ヶ浦が好きだつた。正保は星ヶ浦公園へ這入るとすぐしやがんで小砂利をいぢくつて動かなかつた。

私は毎年末に年賀狀の代りに年末の挨拶を出す習慣だつたが、昨年はその餘白に陽子の言葉と正保の近況を書いた。私はそれにも書いた通り二人の子供達にパパ、ママを呼ばせて居る。私は日本語でお父さんお母さんといわせたいのだが無理である。これだけは一歳や二歳の子供達の爲めに最も發音し易いパパ、ママを採用したので、早くから子供達も使ふことが出來た。パパ、ママが如何にも洋粹論者らしく見へるのがいやではあつたが、ほんとうに子供達の立場を考へる時に、そうした杞憂の無駄であることがわかるのである。尠くともいたいけな子供達に對してはこの位の用意はして貰ひたい――と私は考へてやつたことであつたが、相當に物心がついた時分に、パパをお父さんママをお母アさんとさせることは相應にむづかしいのにぶッつかつて、一寸驚ろいた。最近の時事漫畫に下町の子供が西洋館の子供に『遊びに行くからおッ母さんにおきゝ』といふのに對し『僕おッ母さんなんて居ない』と返事をしたといふのは、如何にもありそうなことで、私も苦笑をした一人であつた。

子供の養育に對しては相應に聞くべく見るべき種類が多い。特に實際子供を持つてみると、そうした新聞の閑文字？欄の隅にも注意するのではあるが、どうもしつくりと肯定出來ぬ場合が多い。よほど注意して方針を定めても、實際に當つてみると、親を敎へるのは、そんな博士達の言葉ではなくて、すぐ目の前に居る子供達であることは誰れでも經驗するところであらう。

私は自分の子供がかわいい、子煩惱といわれる程かわいいのではあるが、それと同時によその子供さんも同じやうにかわいいのであつて、自分の子が鼻を垂らしたらすぐかんでやるやうに、よその子もなるべく取つてやる。私は更に爪を切ることを厲行してゐるから、自分の子供だけは例へ妻が爪を伸ばしては居ても、いつも立派につんでゐる。始めこそいやがつたが、今ではそう太して苦痛にしないやうになつた。從つてお隣りの子供さんは痛いといつてどうしても切らせないのを私が出張して切つてやるのである。『餘計なこと』ではない。これは大人が子供に對する義務であるとさへ思つて居る。

私は從來、仕事の關係上から、たくさんの子供さん達と友達になつて居る。大連市内の學童から中等學校位の生徒ならみんな友達の積りである。いろいろの機會で接觸して居る中に、子供達の心持ちがますますよく解るやうな氣がすると同時に、あべこべに解らなくなることも事實で、わかるやうなわからぬやうな矢張り私の修養の不足がひしひしと感ぜられるのである。

研究會の趣旨目的

滿洲社會事業研究會は其の名稱の如く研究を主とする間接機關でありますが研究と共にその研究の結果を發表し講演會その他の集會をも催ふし宣傳、鼓吹、報道、論評と相待つて實行促進に努力しますから直接に自ら實行しないでも漸次實行を促すことになります場合に依り又事業の性質によりては本會自ら實行するやうな事があるかも知れませんが本來の使命は間接的に助長、發達、進歩を計り社會問題に對する正しい理解力を一般に普及したいのであります夫れから本會は會員組織でありまして會員を別つて贊助員及び普通會員とし役員は會長一名、副會長二名、幹事長一名並に幹事若干名で外に顧問、相談役及び評議員若干名を置くことに成つて居ます評議員は贊助員の中より選擧し其の任期は二年です評議員會は會長において必要と認めたるとき又は評議員五名以上の請求ありたるとき開くのです評議員會は今日迄に既に拾餘回開きました本會の經費は會費及び寄附金を以て之れに充て會費は贊助員毎月貳圓、普通會員同上壹圓です追つて沿線重要地に支部を設けます。

研究會の組織綱領

◉滿洲日日新聞、遼東新報、大連新聞、日滿通信、地方經營(滿鐵地方部庶務課)、大陸青年、滿蒙、南滿教育、讀書會雜誌、海友、調査時報(滿鐵調査課)、滿洲建築協會雜誌、極東、滿洲技術協會雜誌、支那研究、滿洲公論、無上道、聖德、滿洲經濟時報、關東新聞(以上大連)◉警察彙報(關東廳警務局)◉大陸日日新聞、奉天毎日新聞(奉天)◉調査彙報(長春商議所)調査時報(滿鐵哈爾賓事務所)◉大乘(上海)◉調査彙報(朝鮮總督府)、朝鮮地方行政、朝鮮及朝鮮人、京城日報(以上京城)◉臺灣時報、憲法月報(以上臺灣)◉都市問題(東京市政調査會)、社會事業(中央社會事業協會)東洋、支那、愛國婦人、人道、婦人新報(以上東京)社會事業研究(大阪社會事業研究會)◉東亞經濟研究(山口)◉福岡日日新聞(福岡)

毎月一回發行

定價表

普通號六拾錢、特別號七拾錢

冊數	定價	郵稅
三箇月分	壹圓九拾錢	五錢
半箇年分	參圓八拾錢	郵稅共
一箇年分	七圓五拾錢	郵稅共

▲半年分及壹年分には特別號を含む▲誌代は總て前金拂の事▲郵券代用は一割增

廣告料

等級	半頁	一頁
特等	四拾圓	八拾圓
一等	貳拾五圓	五拾圓
二等	拾五圓	參拾圓
三等	拾圓	貳拾圓

●三回以上は割引可仕候●年極めは特別に御相談可致候

●〆切りは前月二十日限り

大正十五年一月元旦發行

發行人　山田武吉
編輯人　大內四郎
印刷人　太田信三
印刷所　小林又七支店　大連市大山通

發行所(電話五四二六番)　滿洲社會事業研究會
大連市松山町五番地七號
振替口座大連一二三九番

K.O

活版石版帳簿

美術コロタイプ印刷

和洋紙、板紙、封筒

石版意匠（包紙レッテル）調製………

活字、印刷インキ、印刷木具類、印刷、製本諸材料、石版石、荷札、海關申告書、約束手形、紙テープ、安全紙幣把、色分銀銅貨包、粉末繪具陸軍ノ陸圖、海軍ノ海圖、朱肉、トイレットペーパー、其ノ他

特約販賣品

- 星印名刺臺紙
- 太田式謄寫版
- ハンデー自働謄寫機
- キング謄寫版
- 太陽印萬年筆用・簿記用インキ
- 邦文・歐文タイプライター
- 酸素療器オキシヘーラー
- 洋蠟燭
- タイシン消火銃

大連市大山通六三

小林又七支店

電話 長四六七番・四〇九番・四四六番・二三四番

振替大連九八四番

FC

福昌公司

大連市山縣通二一三番地

電話代表番號七一七一番

輸出入　保險　倉庫　土木、建築

▲營業品目

◎東京製綱會社製ワイヤロープ、マニラロープ、ターロープ一手販賣

◎安川電機製作所電動機、發電機、變壓器、配電盤、其他附屬類一手販賣

◎米國ヴアキユーム鑛油會社製車軸油、機械油、汽筒油、自動車油、其他各種滑油並にグリース類一手販賣

◎瑞典SKF會社製SKFボール並にローラーベアリング一手販賣

◎丁抹サブロー會社製炭酸瓦斯式冷藏裝置請負

◎イングリツシユ、エレクトリツク會社製電氣汽關車、ダービン發電機裝置其他電氣機械類

◎英國ジヨン、アイ、ソーニクロフト會社製貨物用自動車、附屬品並に舶用機器汽鑵一手販賣

◎日本皮革會社製鳳凰印ベルト一手販賣

◎日本化學工業會社製象印カーバイト一手販賣

◎米國フアイヤーストーン會社製各種タイヤー其他護謨製品類一手販賣

◎米國ヴイクター會社製蓄音器各種レコード並にアルバム類

◎歐米各種乘用貨物用自動車並に附屬品一式

◎金物、諸機械、米松其他木材アルコール、セメント麥粉

◎砂糖、米、海產物、洋酒、毛糸、其他各種洋雜貨類輸入販賣

◎ドロマイト、石灰石、花崗石、土砂採掘販賣並に煉瓦製造販賣

▲保險代理

◎帝國火災保險株式會社

◎大阪海上火災保險株式會社

◎日本共立火災保險株式會社

◎セノース、ブリチシ、エンド、マーカンタイル保險株式會社

八月十五日第三種郵便物認可
一月一日發行（毎月一回一日發行）

人事相談

滿洲社會事業研究會